

作成日 2024/5/15

新専門医制度 内科領域

大阪大学医学部附属病院 内科専門研修プログラム

プログラム冊子

別表資料 A) ~ E)

大阪大学医学部附属病院 内科専門医研修プログラム

目次

1. プログラムの概要
2. 専門研修施設群
3. 研修の行われ方（研修方法、研修内容）
4. 研修の到達目標・経験目標
5. 研修コース（内科基本コースと Subspecialty 重点コース）
6. 研修の評価方法
7. 研修の修了判定
8. 研修の休止・中断・プログラム移動について
9. 専門研修修了後のフォローアップ体制
10. 本プログラムの魅力・持ち味について
11. 専攻医の受け入れ人数
12. 専攻医の就業環境
13. 研修プログラム管理運営体制
14. 研修プログラムの改善方法
15. 専攻医の採用について
16. 基幹施設における各診療科の特徴と週間スケジュール
17. その他（指導医の要件、プログラム運用マニュアル等）

別表資料

- A) 基幹施設における各診療科の特徴および週間スケジュール
- B) 内科基本コース、Subspecialty 重点コースの年間スケジュール
- C) 基幹施設概要、連携施設概要
- D) 各年次到達目標
- E) 大阪大学医学部附属病院内科専門研修プログラム管理委員会構成委員

1. プログラムの概要

理念と特徴（整備基準1、28）

新たな内科専門医制度は、国民から信頼される内科領域の専門医を養成するための制度です。本プログラムでは、国立大学法人大阪大学の医学部附属病院を基幹施設とし、大阪府豊能医療圏にある市民病院および大阪府下の特色ある病院を連携施設に加えて病院群を形成し、その中で内科専門医を育成します。本プログラムを通じて専攻医は、内科専門医としての基本的臨床能力を獲得するだけでなく、豊能医療圏の医療事情を深く理解するとともに、本地域の実情に合わせた実践的な医療をも行えるように訓練されます。

具体的には、本プログラム参加施設群で3年間（基幹施設2年間＋連携施設1年間、または、基幹施設1年間＋連携施設2年間）にわたり研修を行います。豊富な臨床経験を持つ内科指導医の適切な指導のもと、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を行い、標準的かつ全人的な内科医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。内科領域全般にわたる診療能力とは、臓器別の内科系Subspecialty 分野のどの専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力であり、全内科医にとって必須のものです。知識や技能だけでなく、目の前の患者さんに人間性をもって接する態度をも含みます。さらに、医師としてのプロフェッショナリズムやリサーチマインドも兼ね備え、様々な環境下でも全人的な内科医療を実践できることが必要とされます。本プログラムでは、このような能力の獲得を目指し、国民から信頼される内科専門医を育成します。

使命（整備基準2）

上記の理念によって育成された内科専門医の使命は、疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて、地域住民の健康に積極的に貢献することです。内科専門医が関わる場は多岐にわたりますが、それぞれの場において、(1)高い倫理観を持ち、(2)最新の標準的医療を実践し、(3)安全な医療を心がけ、(4)プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し、(5)臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供し、(6)チーム医療を円滑に運営していく、以上のことが求められます。本プログラムを修了して内科専門医の認定を受けた後も、内科専門医はこうした使命を果たすべく、常に自己研鑽を続け、最新の情報を学び、新しい技術を修得し、自らの診療能力をより高めることが必要です。また、将来の医療の発展のため、リサーチマインドを持って医療に従事し、臨床研究、基礎研究につながる症例や事象を見逃さないようにしなければなりません。本プログラムでは、このような使命を果たすことのできる内科専門医を育成します。

研修後の成果（整備基準3）

専門研修後の具体的な活躍の場としては、下記のような場が揚げられますが、それぞれの場に応じて、それぞれの専門医像に合致した役割を果たし、国民の信頼を獲得することが求められます。それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる専門医像は単一ではありませんが、本プログラムでは、いずれの環境においても対応可能な可塑性の高い能力をもつ内科専門医を輩出することを、研修後の成果に据えています。

1) 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）として

地域において常に患者と接し、内科慢性疾患に対して、生活指導まで視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を任務とする全人的な内科診療を実践する。

2) 内科系救急医療の専門医として

内科系急性・救急疾患に対してトリアージを含めた適切な対応が可能な、地域での内科系救急医療を実践する。

3) 病院での総合内科（generality）の専門医として

病院での内科系診療で、内科系の全領域に広い知識・洞察力を持ち、身体・精神の統合的・機能的視野から診断・治療を行う能力を備えた総合内科医療を実践する。

4) 総合内科的視点を持ったサブスペシャリストとして

病院での内科系のサブスペシャリティを受け持つ中で、総合内科（generalist）の視点から、全人的、臓器横断的に診断・治療を行う基本的診療能力を有する内科系サブスペシャリストとして診療を実践する。

本プログラムでは大阪大学医学部附属病院を基幹病院として、多くの連携施設と病院群を形成しており、複数の施設での経験を積むことにより、様々な環境に対応できる内科専門医が育成される体制を整えています。

2. 専門研修施設群（整備基準 23～26、28、31）

本プログラムの構成施設群は以下の通りです。基幹施設として大阪大学医学部附属病院、連携施設として、豊能医療圏に位置する地域密着総合病院、同じく豊能医療圏に位置する高度専門医療機関、大阪市および神戸市に位置する都市型総合病院、同じく大阪市に位置する高度専門医療機関、堺市および和歌山県田辺市、兵庫県阪神間などに位置する地域中核総合病院の計 18 病院で構成されています。県外の病院が連携施設として含まれているのは、これまでの阪大病院との連携実績から教育資源の按分が必要と判断されるためです。

基幹施設： 大阪大学医学部附属病院

連携施設：	市立池田病院	（豊能圏における地域密着総合病院）
	市立豊中病院	（豊能圏における地域密着総合病院）
	箕面市立病院	（豊能圏における地域密着総合病院）
	国立循環器病研究センター病院	（豊能圏の高度専門研修病院）
	国立病院機構大阪刀根山医療センター	（豊能圏の高度専門研修病院）
	住友病院	（大阪市に位置する都市型総合病院）

日本生命病院	(大阪市に位置する都市型総合病院)
淀川キリスト教病院	(大阪市に位置する都市型総合病院)
大阪国際がんセンター	(大阪市の高度専門研修病院)
桜橋渡辺病院	(大阪市の高度専門研修病院)
堺市立総合医療センター	(堺市の地域中核総合病院)
紀南病院	(和歌山県田辺市の地域中核総合病院)
吹田市民病院	(豊能圏における地域密着総合病院)
川崎病院	(神戸市に位置する都市型総合病院)
兵庫県立西宮病院	(西宮市の地域中核総合病院)
市立伊丹病院	(伊丹市の地域中核総合病院)
川西市立総合医療センター	(川西市の地域中核総合病院)
市立東大阪医療センター	(東大阪市の地域中核総合病院)
大阪はびきの医療センター	(羽曳野市の地域中核総合病院)

基幹施設および各連携施設の施設概要については、別表資料Cを参照してください。また、各連携施設の役割やローテート時期については、18. 専攻医研修マニュアルの項目5や別表資料Bを参照してください。ローテートのパターンによって各施設での研修期間は異なりますが、いずれのパターンにおいても、基幹施設では1年間ないしは2年間の研修を行い、連携施設においても、一つの連携施設で1年間または2年間の研修を行うこととなります。

3. 研修の行われ方（研修方法、研修内容）

内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次、経験していくことによって、内科の基礎的診療を繰り返し学びます。それぞれの疾患や病態に特異的な診療技術を習得し、また、個々の患者の抱える多様な背景に配慮する経験も積み重ねられていきます。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察を含めて記載し、複数の指導医による指導を受けることによって、リサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を養います。

研修段階の定義

内科専門医は、2年間の初期臨床研修後に設けられた専門研修3年間の研修で育成されます。専門研修の3年間では、それぞれ医師に求められる基本的診療能力・態度・資質と日本内科学会が定める「内科専門研修カリキュラム」（別添）にもとづいて、内科専門医に求められる知識・技能の修得目標を設定し、基本科目修了の終わりに達成度を評価します。具体的な評価方法は後の項目で示します。

臨床現場での学習（整備基準13、41、43）

日本内科学会では内科領域を70疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し、代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載することを定めています。日本内科学会専攻医登録評価システム（仮

称 以下、「専攻医登録評価システム」)への登録と、指導医の評価と承認とによって、目標達成までの段階をup to dateに明示することとします。各年次の到達目標は後述いたします(項目3や別表資料D)。各診療科カンファレンス(週1回開催)、あるいは内科合同カンファレンス(年4回開催)を通じて、病態や診断過程の理解を深め、多面的な見方や最新の情報を得ます。また、プレゼンターとして情報検索やコミュニケーション能力を高めます。専攻医2年目以降からは、初診を含む外来診療(1回/週以上)を通算で6ヵ月以上行います。また、当直業務を経験します。当直業務は主に連携施設で経験しますが、基幹施設でもローテートしている診療科によって担当する場合があります。内科領域の救急診療の経験は、こうした外来あるいは当直において積むことになります。

臨床現場を離れた学習 (整備基準14、41、43)

院内講習会、院内診療科カンファレンス、院内内科合同カンファレンス、関連する外科領域との院内合同カンファレンス、CPC、JMECC、研修施設群合同カンファレンス、地域参加型カンファレンス、学術集会等への参加により学習します。そこでは、内科領域の救急対応、最新のエビデンスや病態・治療法の理解、標準的な医療安全や感染対策に関する事項、医療倫理・臨床研究や利益相反に関する事項、などについて学習します。こうした、院内外の講習会およびカンファレンスは定期的に行われています。受講歴は「専攻医登録評価システム」を用いて登録され、充足状況が把握されます。内科系学術集会、JMECC(内科救急講習会)、医療倫理講習会、医療安全講習会、感染対策講習会への必要参加回数(修了要件)は、18。内科専攻医研修マニュアルに記載されています。

自己学習 (整備基準15)

研修カリキュラムにある疾患について、自身の経験がなくても自己学習すべき項目については、内科系学会が行っているセミナーのDVDやオンデマンドの配信を用いて自己学習します。(個人の経験に応じて適宜DVDの視聴ができるように準備します。)また、日本内科学会雑誌のMCQ(Multiple Choice Questions)やセルフトレーニング問題を解き、内科全領域の知識のアップデートの確認手段とします。週に1回、指導医とWeekly summary discussionを行い、その際、当該週の自己学習結果を指導医が評価し、研修手帳に記載します。

内科基本コースとSubspecialty重点コース (整備基準32)

本プログラムでは、後述するように大きく2つのコース(内科基本コースとSubspecialty重点コース)を用意しています。内科基本コースは、高度な総合内科(Generality)の専門医を目指す場合や、将来のSubspecialtyが未定な場合に選択します。一方、Subspecialty重点コースは、希望するSubspecialty領域を重点的に研修できるコースで、それぞれの専門医像に応じた研修を準備しています。Subspecialty研修は、3年間の内科専門研修期間のうち、トータルで最長1年間、内科研修の中で行ないます。また、大学院における臨床研究は、臨床医としてのキャリアアップにも大いに有効であることから、研修期間中に臨床系大学院に進学しつつも専門医資格が取得できるプログラムを、Subspecialty重点コースの中に用意しています。

4. 研修の到達目標・経験目標

(1)知識・技能・態度（整備基準4、5、41）

専門知識の範囲（分野）は、「総合内科」、「消化器」、「循環器」、「内分泌」、「代謝」、「腎臓」、「呼吸器」、「血液」、「神経」、「アレルギー」、「膠原病および類縁疾患」、「感染症」、ならびに「救急」で構成されています。研修カリキュラムには、これらの分野に「解剖と機能」、「病態生理」、「身体診察」、「専門的検査」、「治療法」、「疾患」などの目標（到達レベル）が記載されています。内科領域を70疾患群に分類し、主担当医として200症例以上を担当します。代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します。自らが経験することのできなかつた症例についてもカンファレンスや自己学習によって知識を補足することが求められます。これによって、遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行うことが可能になります。

3年間の専攻医研修期間で、以下に示す内科専門医受験資格の要件を満たすことを目標にします。尚、習得すべき疾患、技能、態度については多岐にわたるため、研修手帳や技術・技能評価手帳を参照してください。

内科専門医受験資格の要件

- 1) 70に分類された各カテゴリーのうち、最低56のカテゴリーから1例を経験すること
- 2) 専攻医登録評価システムへ症例(目標200症例、最低160例)を登録し、それを指導医が確認・評価すること
- 3) 登録された症例のうち、29症例を病歴要約として内科専門医制度委員会へ提出し、査読委員から合格の判定をもらうこと
- 4) 内科領域全般について診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針を決定する能力、基本領域専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得すること

各年次の到達目標は以下の基準を目安とします。（整備基準4、5、16）

○専門研修1年

症例：カリキュラムに定める70疾患群のうち、20疾患群以上を経験し、専攻医登録評価システムに登録することを目標とします。また、専門研修修了に必要な病歴要約を10編以上記載して、同システムに登録します。

技能：疾患の診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医とともに行うことができるようにします。

態度：専攻医自身の自己評価、指導医とメディカルスタッフによる360度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います。

○専門研修2年

疾患：カリキュラムに定める70疾患群のうち、通算で45疾患群以上を（できるだけ均等に）経験し、専攻医登録評価システムに登録することを目標とします。70疾患群のうち計45疾患群以上の内訳と到達基

準は下記の通りです。また、専門研修修了に必要な病歴要約29編を全て記載して、同システムに登録します。

70 疾患群の内訳と2年間での到達目標

総合内科I 1 疾患群のうち1 疾患群以上

総合内科II 1 疾患群のうち1 疾患群以上

総合内科III 1 疾患群のうち1 疾患群以上

消化器 9 疾患群のうち5 疾患群以上

循環器 10 疾患群のうち5 疾患群以上

内分泌 4 疾患群のうち2 疾患群以上

代謝 5 疾患群のうち3 疾患群以上

腎臓 7 疾患群のうち4 疾患群以上

呼吸器 8 疾患群のうち4 疾患群以上

血液 3 疾患群のうち2 疾患群以上

神経 9 疾患群のうち5 疾患群以上

アレルギー 2 疾患群のうち1 疾患群以上

膠原病 2 疾患群のうち1 疾患群以上

感染症 4 疾患群のうち2 疾患群以上

救急 4 疾患群のうち4 疾患群以上

計45疾患群以上の経験が到達基準となります。

技能：疾患の診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医の監督下で行うことができるようにします。

態度：専攻医自身の自己評価，指導医とメディカルスタッフによる360度評価を複数回行って態度の評価を行います。専門研修1年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

○専門研修3年

疾患：主担当医として，カリキュラムに定める全70疾患群，計200症例の経験を目標とします。但し，修了要件はカリキュラムに定める56疾患群，そして160症例以上（外来症例は1割まで含むことができる）とします。この経験症例内容を専攻医登録評価システムへ登録します。既に登録を終えた病歴要約は，日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）による査読を受けます。

技能：内科領域全般について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を自立して行うことができるようにします。

態度：専攻医自身の自己評価，指導医とメディカルスタッフによる360度評価を複数回行って態度の評価を行います。専門研修2年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。また，基本領域専門医としてふさわしい態度，プロフェッショナルリズム，自己学習能力を修得しているか否かを、指導医が専攻医と面談し，さらなる改善を図ります。

(2) 学問的姿勢（整備基準6、30）

本プログラムでは以下のような学問的姿勢の獲得も到達目標に置いています。

- 1) 患者から学ぶという基本姿勢
- 2) 科学的な根拠に基づいた診断、治療を行う（EBM: evidence based medicine）
- 3) 最新の知識、技能を常にアップデートする（生涯学習）
- 4) 診断や治療のevidence の構築・病態の理解につながる研究を行う
- 5) 症例報告を通じて深い洞察力を磨く

このため、症例検討会や論文の抄読会、各科の研究発表会への参加を奨励します。症例検討会では、受持症例のプレゼンテーションを行い、症例に関する論文概要を提示し、討論を通してEBMの実践につなげます。論文の抄読会や各科で行われている研究発表会では、最新の知識、技能を学習し、その分野の学識を深め、国際性や医師の社会的責任についても学びます。さらに論文発表も本プログラムでは目標としています。論文の作成は科学的思考や病態に対する深い洞察力を磨くために極めて重要なことであり、内外へ広く情報発信する姿勢は高く評価されます。

学術活動の具体的目標として、学術集会や企画に年2回以上参加し、さらに筆頭演者として学会発表を1件以上、さらに症例報告や臨床研究についての論文発表を筆頭著者として1件以上を研修期間内に行います。論文発表が間に合わない場合は、筆頭演者としての学会発表を2件以上行います。

(3) 医師としての倫理性、社会性（整備基準7）

内科専門医として高い倫理観と社会性を有することが要求されます。具体的には以下のような能力、姿勢、態度を習得します。

- 1) 患者とのコミュニケーション能力
- 2) 患者中心の医療の実践
- 3) 患者から学ぶ姿勢
- 4) 自己省察の姿勢
- 5) 医の倫理への配慮
- 6) 医療安全への配慮
- 7) 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）、
- 8) 地域医療保健活動への参画
- 9) 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
- 10) 後輩医師への指導

医療倫理、医療安全と院内感染症対策を十分に理解するため、年に2回以上の医療倫理、医療安全、感染防御に関する講習会に出席します。出席回数は常時登録され、年度末になると受講履歴が個人にフ

ードバックされ、受講を促されます。また、病棟や外来で医学生・初期研修医を指導します。後輩を指導することは、自分の知識を整理・確認することにつながることから、当プログラムでは、専攻医の重要な取組と位置づけています。

(4) 経験すべき疾患・病態 (整備基準8)

先に述べたように、主担当医として受け持つべき経験症例は専門研修を修了するまでに200 症例以上です。受け持ち患者が特定の分野に偏らないように内科全分野を70 疾患群に分類して、これらの疾患群の中から1 症例以上受け持つことを目標とします（疾患群は「研修手帳」の疾患群項目を参照のこと）。なお、専攻医研修において、内科領域はその幅の広さと稀少疾患の存在から全疾患群を受け持つ機会が困難な場合が想定されます。初期臨床研修中の内科研修での経験も内科専門研修で得られなかった貴重な経験が含まれる場合もあり、その専攻医が初期臨床研修中に経験した症例のうち、主担当医として適切な医療を行い、専攻医のレベルと同等以上の適切な考察を行っていると言指導医が確認できる場合には、最低限の範囲（全53症例まで）で登録が認められます。

(5) 経験すべき診察・検査等 (整備基準9)

内科の修得すべき診察、検査は横断的なものと、分野特異的なものとに分けて設定されています（「技術・技能評価手帳」を参照）。これらは症例経験を積む中で身につけていくべきものであり、その達成度は指導医が確認します。

(6) 経験すべき手術・処置等 (整備基準10)

内科領域のすべての専門医に求められる手技について、技術・技能評価手帳に示されています。内科領域ではこれらの到達目標を症例経験数で一律に規定することはできません。到達目標として提示した疾患や病態の主体的経験を通じて修得すべき事項であり、安全に実施または判定できることが求められます。これらは専攻医が経験をするたびに専攻医登録評価システムに登録を行い、指導医が承認を行うことによってその到達度を評価します。また、バイタルサインに異常をきたすような救急患者や急変患者あるいは重症患者の診察と心肺機能停止状態の患者に対する蘇生手技とについては、off-the-job training としてシミュレーターを用いたJMECC 受講によって修得します。

(7) 地域医療の経験 (病診・病病連携、地域包括ケア、在宅医療など) (整備基準11)

本プログラムでは、大阪大学医学部附属病院（基幹施設）において、臓器別のサブスペシャリティ領域に支えられた高度な急性期医療を経験しますが、また同時に、地域の病診・病病連携の中核としての役割も経験します。北摂地区の連携施設では、コモンディージーズの経験をすると同時に、中核病院との病病連携や診療所と中核病院との間をつなぐ病診・病病連携の役割を経験します。また、地域包括ケアや在宅医療などについても研修します。このように、立場や地域における役割の異なる複数の医療機関で研修を行うことによって、各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験し、内科専門医に求められる役割を経験します。

(8) 学術活動 (整備基準12、30)

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず、これらを自ら深めてゆく姿勢です。この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります。このため、本プログラムでも、症例の経験を深めるための学術活動と教育活動も、経験目標として設定しています。

教育活動（必須）

- 1) 初期臨床研修医あるいは医学部学生の指導を行う
- 2) 後輩専攻医の指導を行う
- 3) メディカルスタッフを尊重し、指導を行う

学術活動

- 4) 内科系の学術集会や企画に年2回以上参加する（必須）
- 5) 経験症例についての文献検索を行い、学会、研究会等で症例報告を行う
- 6) クリニカルクエスチョンを見出して臨床研究を行う
- 7) 内科学に通じる基礎研究を行う

上記のうち5)～7)は筆頭演者として学会発表を1件以上、筆頭著者として論文発表を1件以上、行います。論文発表が間に合わない場合は、筆頭演者としての学会発表を2件以上することとします。

5. 研修コース（内科基本コースと Subspecialty 重点コース）

本プログラムでは専攻医が抱く専門医像や将来の希望に合わせて以下の2つのコース、①内科基本コース、②Subspecialty重点コース、を準備しています。コース選択後も条件を満たせば他のコースへの移行も認められます。

Subspecialtyが未決定、または高度な総合内科専門医を目指す場合は内科基本コースを選択します。3年間で各内科や内科臨床に関連ある救急部門などをローテートします。将来のSubspecialtyが決定している専攻医はSubspecialty重点コースを選択します。いずれのコースを選択しても遅滞なく内科専門医受験資格を得られる様に工夫されており、専攻医は卒後5-6年で内科専門医、その後Subspecialty領域の専門医取得ができます。

内科基本コース

内科（Generality）専門医は勿論のこと、将来、内科指導医や高度な Generalist を目指す方も含まれます。将来の Subspecialty が未定な場合に選択することもあります。内科基本コースは内科の領域を偏りなく学ぶことを目的としたコースであり、専攻医研修期間の3年間において内科領域を担当する全ての科をローテートします。原則として3ヵ月を1単位として、各病棟（全7病棟）をローテートします（基本コース KKR パターン）。3年目は地域医療の経験と症例数が充足していない領域を重点的に連携施設で研修します。また、1～2年目を連携施設でローテートして common disease と地域医療を経験し、3年目を基幹施設で難治性疾患、希少疾患を重点的に研修する場合があります（基本コース RRK パター

ン)。研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上、プログラム統括責任者が決定します。

Subspecialty重点コース（整備基準32）

希望するSubspecialty領域を重点的に研修するコースです。また、本プログラムによる研修期間内に大学院への進学を希望する人はこのコースを選択します。最初の2年間で必要な症例を経験し、3年目にSubspecialty領域を重点的に研修することになります。1～2年目は基幹施設において、原則3ヵ月を1単位として各病棟（全7病棟）をローテートします。3年目には、連携施設において内科研修を継続し、Subspecialty領域を重点的に研修します（サブスペ重点コースKKRパターン）。1年目に基幹施設、2年目は他の連携施設で研修するパターンもあります。（サブスペ重点コースKRRパターン）逆に、1～2年目を連携施設で偏りなく内科疾患全般を研修し、3年目に基幹施設でSubspecialty領域を重点的に研修する場合もあります（サブスペ重点コースRRKパターン）。さらに、1年目を連携施設、2年目を基幹施設でローテートし、3年目は基幹施設でSubspecialty領域を重点的に研修する場合もあります（サブスペ重点コースRKKパターン）。サブスペ重点コースのRRKパターンおよびRKKパターンは、3年目から各診療科の臨床系大学院へ入学が可能であり、大学院に早く進学したい人向けのパターンといえます。研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上、希望するSubspecialty領域の責任者とプログラム統括責任者が協議して決定します。尚、希望者は、2年目から大学院へ入学したりすることも可能です。

基幹施設における各病棟の診療科は下記の通りです。

東12階 糖尿病・内分泌・代謝内科、免疫内科
東11階 消化器内科
東10階 血液腫瘍内科
東9階 循環器内科
東8階 老年・総合内科、神経内科・脳卒中科
東7階 呼吸器内科
東3階 腎臓内科

各コース、各パターンの年度ごとの概略については、18．専攻医研修マニュアルの項目5および別表資料Bを参照してください。

6．研修の評価方法（整備基準17～22、42）

形成的評価（指導医、研修委員会の役割）

担当指導医およびローテーション先の上級医は専攻医の日々のカルテ記載と、専攻医がWeb版の研修手帳に登録した症例登録を経時的に評価し、症例要約の作成についても指導します。また、技術・技能についての評価も行います。年に複数回、自己評価、担当指導医による評価、ならびにメディカルスタッフ

(接点の多い複数の他職種職員5名以上を指名)による360度評価を行います。メディカルスタッフによる評価は、担当指導医によって専攻医登録評価システムに登録され、専攻医にもフィードバックされます。これらの結果を踏まえて、改善すべき点があれば、専攻医にその改善を促します。

専門研修2年修了時までには29症例の病歴要約を順次作成し、専攻医登録評価システムに登録します。ピアレビュー方式の形成的評価を行い、専門研修3年次修了までにすべての病歴要約が受理されるように改訂します。

本プログラムの研修委員会は年に複数回、プログラム管理委員会は年に1回以上開催され、専攻医登録評価システムを用いて、履修状況を確認して適切な助言を行います。また、必要に応じて、各専攻医の研修プログラムの修正を行います。

総括的評価

担当指導医は、各年次の到達目標(3.に記載)を満たす症例経験と病歴要約の総括的評価、および承認を年度終了時に行います。また、専攻医研修3年目の3月には研修手帳を通して経験症例、技術・技能の目標達成度について最終的な評価を行います。29例の病歴要約の合格、所定の講習会受講や学会参加、学会発表、論文発表も判定要因になります。最終的には指導医による総合的評価に基づいてプログラム管理委員会によってプログラムの修了判定が行われます。この修了後に実施される内科専門医試験(毎年夏～秋頃実施)に合格して、内科専門医の資格を取得します。

ベスト専攻医賞の選考

プログラム管理委員会とプログラム統括責任者は上記の評価を基にベスト専攻医賞を専攻医研修終了時に毎年1名選出し、表彰状を授与します。

専攻医による自己評価とプログラムの評価

日々の診療・教育的行事において指導医から受けたアドバイス・フィードバックに基づき、Weekly summary discussionを行い、研修上の問題点や悩み、研修の進め方、キャリア形成などについて考える機会を持ちます。毎年3月に現行プログラムに関するアンケート調査(匿名)を行い、専攻医の満足度と改善点に関する意見を収集し、次期プログラムの改訂の参考とします。アンケート用紙は別途定めます。

7. 研修の修了判定 (整備基準21、53)

専攻医登録評価システムに以下のすべてが登録され、かつ担当指導医が承認していることをプログラム管理委員会が確認して修了判定会議を行います。

- 1) 主担当医として通算で最低56疾患群以上、計160症例以上の症例(外来症例は登録症例の1割まで含むことができる)の経験
- 2) 所定の受理された29編の病歴要約

- 3) 所定の2編の学会発表または論文発表
- 4) JMECC受講1回
- 5) 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会を年複数回受講
- 6) 指導医とメディカルスタッフによる360度評価の結果に基づき、医師としての適性に疑問がないこと

専攻医は様式1(未定)を専門医認定申請年の1月末までにプログラム管理委員会に送付してください。プログラム管理委員会は3月末までに修了判定を行い、研修証明書を専攻医に送付します。その後、専攻医は日本専門医機構内科専門医委員会に専門医認定試験受験の申請を行ってください。

8. 研修の休止・中断・プログラム移動について (整備基準33)

出産、育児によって連続して研修を休止できる期間を6カ月以内とし、研修期間内の調整で不足分を補うこととします。6か月を超える休止の場合は、未修了とみなし、不足分を予定修了日以降に補うこととします。また、疾病による場合も同じ扱いとします。短時間の非常勤勤務期間などがある場合、按分計算(1日8時間、週5日を基本単位とする)を行うことによって、研修実績期間に加算されます。

研修中に居住地の移動、その他の事情により、研修開始施設での研修続行が困難になった場合は、移動先の基幹研修施設において研修を続行できます。その際、移動前と移動先の両プログラム管理委員会が協議して調整されたプログラムを摘要します。この一連の経緯は専門医機構の研修委員会の承認を受ける必要があります。他の領域から内科領域での専門研修に移行する場合、他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修を始める場合、あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験を有している場合には、当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し、担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め、さらにプログラムの統括責任者が認めた場合に限り、専攻医登録評価システムへの登録が認められます。症例経験として適切か否かの最終判定は、日本専門医機構内科領域研修委員会が行います。

9. 専門研修修了後のフォローアップ体制

本プログラムによる専門研修修了後は、専攻医の希望に応じて、下記のような場合が想定されますが、いずれの場合においても大阪大学の各内科系診療科が相談に応じ、責任をもってフォローアップ体制を整えます。

- 1) 内科系 subspecialty 領域の専門医を目指す：阪大病院またはその関連施設において内科系の Subspecialty 科に所属して診療に従事し、内科サブスペ研修を継続します。
- 2) 内科系の医学博士取得を目指す：大阪大学大学院医学系研究科の大学院生または研究生として、臨床研究または基礎医学研究を行い、医学博士の取得を目指します。また週に何時間かは、大学病院または地域の医療機関にて診療を実践する機会を持ち、サブスペ領域の専門医も目指します。
- 3) 内科系救急医療の専門医として活躍する：病院の救急医療を担当する診療科に所属し、内科系急

性・救急疾患に対してトリアージを含めた適切な対応が可能な、地域での内科系救急医療を実践します。

- 4) 病院での総合内科 (Generality) の専門医として活躍します：病院の総合内科に所属し、内科系の全領域に広い知識・洞察力を持ち、総合的医療を実践します。
- 5) 地域医療における内科領域の診療医 (かかりつけ医) となります：地域において常に患者と接し、内科慢性疾患に対して、生活指導まで視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を実践します。地域の医院に勤務 (開業) し、実地医家として地域医療に貢献します。

10. 本プログラムの魅力・持ち味について

本プログラムの魅力は、何といても早期から大阪大学において教育を受けることができる点にあります。大学はいうまでもなく学問の府であり、大学ならではのアカデミズムが浸透しています。各領域の専門家が数多く在籍しており、また希少症例も含めて数多くの症例が集まってきます。つまり、教育資源が極めて豊富であるということです。

本プログラムでは、以下の3つのコンセプトを掲げています。

- ① 大阪大学の内科全体で専攻医を育てる
- ② 教育機会の充実化を図る
- ③ 学術活動に関して高い目標設定をおく

こうしたコンセプトを実現すべく、具体的に下記のような研修システムを構築する予定です。

- 専攻医を対象とした研修会 (レクチャー) を定期的 to開催します。テーマは内科全体にわたり、先進的な内容を盛り込みます。さらに、医学英語や臨床統計疫学についても取り上げ、国際的な臨床研究の基礎を教育します。
- 9診療科の全科長が出席のもと、内科全体での症例検討会 (院内内科合同カンファレンス) を定期的に行います。専攻医は研修中、必ず1回はこの場でプレゼンを行い、討論に加わり、指導を受けます。
- 国内の学会発表だけでなく、国際学会での発表も目標とします。また、論文発表も可能なかぎり行うように指導します。
- 救急について、希望者には救命救急センターにローテートして、3次救急を経験することを可能にします。
- 全身管理について、希望者にはICUにローテートして、内科全身管理を学ぶことを可能にします。
- 本プログラム中に大学院に進学した専攻医には、内科専門研修に支障をきたさない範囲で、研究指導を積極的に行っていきます。

1 1. 専攻医の受け入れ人数（整備基準27、31）

本プログラムにおける専攻医募集人数（1学年分）は7名です。

- (1) 大阪大学医学部附属病院の専門医育成プログラム（内科系）に登録された後期研修医（関連施設での在籍者も含む）は、過去3年間で併せて195名で、1学年60数名の実績があります。
- (2) 大阪大学医学部附属病院で専攻医（大学院生も含む）として新たに採用された医師の過去三年間での平均人数は28名であり、十分な後期研修医教育の実績があります。
- (3) 大阪大学医学部附属病院には各診療科に割り当てられた雇用人員数に応じて、募集定員を一診療科あたり数名の範囲で調整することが可能です。
- (4) 剖検体数は2022年度18体（うち内科系診療科 9体）ですが、連携施設から按分される剖検数を合せるとそれ以上となり、1専攻医1剖検例は、十分充足が可能です。
- (5) 本プログラムに按分される指導医数は、基幹施設のみで65名、連携施設から按分される指導医をあわせると89名であり、募集人数の専攻医を指導するに十分の人材が備わっています。

経験すべき症例数の充足について

表. 大阪大学医学部附属病院 2023年度 診療科別診療実績

2023年実績	入院延患者数 (延人数/年)	外来延患者数 (延人数/年)
循環器内科	16,372	24,242
腎臓内科	6,150	15,299
消化器内科	16,811	42,432
糖尿病・内分泌・代謝内科	6,514	39,234
呼吸器内科	9,697	12,295
免疫・アレルギー内科	7,074	22,169
血液・腫瘍内科	12,895	17,807
老年・総合内科	4,063	10,356
神経内科・脳卒中科	11,522	18,761

上記表の入院患者について DPC 病名、退院時サマリー等、客観的資料に基づき各診療科における疾患群別の入院患者数を分析したところ、他プログラムへの按分後においても、全 70 疾患群のうち 50 疾患群において充足可能でした。従って残り 20 疾患群のうち、6 疾患群を連携施設で経験すれば 56 疾患群の修了条件を満たすことができます。連携施設には、市立池田病院、市立豊中病院、箕面市立病院、住友病院、日本生命病院、淀川キリスト教病院、国立循環器病研究センター病院、大阪刀根山医療センター、大阪国際がんセンター、桜橋渡辺病院、堺市立総合医療センター、紀南病院、吹田市民病院、川崎病院、兵庫県立西宮病院、市立伊丹病院、川西市立総合医療センター、市立東大阪医療センター、大阪はびきの医療センターがあり、それぞれの連携施設の特徴を生かしたコースおよびローテーションパターンを用意していま

す。詳細は18. 専攻医研修マニュアルの項目5を参照してください。

12. 専攻医の就業環境 (整備基準40)

専攻医の就業環境を整えることを重視しています。専攻医の勤務時間、休暇、当直、給与等の勤務条件に関しては、労働基準法を順守し、大阪大学医学部附属病院および各連携施設での「専攻医就業規則及び給与規則」に従います。時間外勤務については上限を明示します。専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理します。特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は、臨床心理士によるカウンセリングを行う機会を提供します。専攻医は採用時に上記の労働環境、労働安全、勤務条件の説明を受けることとなります。プログラム管理委員会では各施設における労働環境、労働安全、勤務条件に関して報告され、これらの事項について総括的に評価します。

13. 研修プログラム管理運営体制 (整備基準34～39)

本プログラムを履修する内科専攻医の研修について、責任を持って管理するプログラム管理委員会を大阪大学医学部附属病院に設置し、委員長（プログラム統括責任者）、副委員長（副プログラム統括責任者）を置きます。プログラム管理委員会の役割と権限、プログラム統括責任者の基準、および役割と権限は、日本内科学会の定める専門研修プログラム整備基準に定められた通りです。プログラム管理委員会の下部組織として、基幹病院および連携施設に専攻医の研修を管理する研修委員会を置き、その委員は専門研修指導医で構成され、研修委員会委員長が統括します。基幹施設および連携施設における研修委員会の委員長も、プログラム管理委員会の委員となります。専門研修指導の基準も、日本内科学会の定める専門研修プログラム整備基準に定められた通りです。

14. 研修プログラムの評価と改善方法 (整備基準49～51)

専攻医登録評価システムを用いて、専攻医による担当指導医や研修プログラムに対する逆評価が年に複数回、無記名で行われます。その集計結果は、担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧し、プログラム管理委員会が把握した事項について、以下に分類して対応を検討し、プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

- 1) 即時改善を要する事項
- 2) 年度内に改善を要する事項
- 3) 数年をかけて改善を要する事項
- 4) 内科領域全体で改善を要する事項
- 5) 特に改善を要しない事項

尚、本プログラムの研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内での解決が困難である場合は、専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会に相談し、内科領域研修委員会が上記と同様に分類して対応していただくことになります。

また、専門医機構によるサイトビジット（ピアレビュー）が本プログラムに対して行われる場合には、プログラム管理委員会および研修委員会が真摯に対応し、プログラムの改善に繋がります。

15. 専攻医の採用

1) 採用方法 本プログラム管理委員会は、日本専門医機構のスケジュール[専攻医の方](#) | [一般社団法人日本専門医機構一般社団法人 日本専門医機構 \(jmsb.or.jp\)](#)に従い、専攻医を募集します。内科専門研修プログラム研修委員会委員を通じて、または直接本プログラム担当(kenshu@bldon.med.osaka-u.ac.jp)まで連絡をいただき、プログラム管理委員会で審査後に採否（通常枠か連携枠かも含めて）を決定して本人に通知します。

2) 研修開始届け 研修を開始した専攻医は、初年度の4月末日までに以下の専攻医氏名報告書を、本プログラム管理委員会(kenshu@bldon.med.osaka-u.ac.jp)に提出します。

・専攻医の氏名と医籍登録番号、日本内科学会会員番号、専攻医の卒業年度 ・専攻医の履歴書・専攻医の初期研修修了登録証 ・また、J-OSLER にも登録します。

3) 研修の修了 全プログラム終了後、プログラム管理委員長が召集するプログラム管理委員会にて審査し、研修修了の可否を判定します。点検の対象となる書類(J-OSLER より書類化する)は以下の通りです。

(1) 専門研修実績記録 (2) 「経験目標」で定める項目についての記録 (3) 「臨床現場を離れた学習」で定める講習会出席記録 (4) 指導医による「形成的評価表」 面接試験は書類点検で問題のあった事項について行われます。以上の審査により、内科専門医として適格と判定された場合は、プログラム修了となり、修了証が発行され、専門医試験受験資格を得られます。その後、資格試験に合格して資格取得されたタイミングで「専門研修修了」（内科の場合、サブスペ領域の専門医試験合格まで）となります。

16. 基幹施設における各診療科の特徴と週間スケジュール

基幹施設には内科系9診療科があり、それぞれが特徴ある診療と研修医教育を行っています。別表資料Aを参照してください。

17. その他（指導医の要件、プログラム運用マニュアル等）

研修指導医の要件、指導者マニュアルの整備

指導医は下記の基準を満たした内科専門医です。専攻医を指導し、評価を行います。

【必須要件】

1. 内科専門医を取得していること
2. 専門医取得後に臨床研究論文（症例報告含む）を発表している（「first author」もしくは「corresponding author」であること）、もしくは学位を有していること
3. 厚生労働省もしくは学会主催の指導医講習会を修了していること
4. 内科医師として十分な診療経験を有していること

【選択とされる要件（下記の 1, 2 いずれかを満たすこと）】

1. CPC, CC, 学術集会（医師会主催のものを含む）などへ主導的立場として関与・参加すること
2. 日本内科学会での教育活動（病歴要約の査読, JMECC のインストラクター等）に関与・参加すること

また、指導医に向けた指導医マニュアルが作成され、各指導医に提示されます。また、指導者研修計画（FD）の実施記録も、専攻医登録評価システムを用いて記録されます。

ただし、2025年までは、暫定措置として日本内科学会が別途定める新制度における内科指導医の条件を満たすものを本プログラムの指導医とします。

専門研修実績記録システム、専攻医研修マニュアルの整備

専門研修は別添の専攻医研修マニュアルにもとづいて行われます。専攻医は専攻医研修実績記録に研修実績を記載し、指導医より評価表による評価およびフィードバックを受けます。これらの研修実績および指導医による指導とフィードバックの記録は、専攻医登録評価システムを用いて記録されます。

別表資料A 基幹施設における各診療科の特徴および週間スケジュール

老年・高血圧内科

1) 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	病棟				
			髄液検査	髄液検査	総合診療科外来
	科長カルテ回診(週3回程度)				
午後	病棟				
		神経心理学検査			
	・科長回診 ・症例検討会 ・医局会	転倒予防講座	・糖尿病カンファ ・認知症カンファ	・総合診療カンファ	高血圧教室

病棟患者の受け持ちを行いながら、老年・高血圧内科病棟、総合診療科外来を担当します。希望に応じて頸動脈エコー、腎ドプラ、心エコーなどのハンズオンセミナーを行います。

2) 学内・学外での教育の機会

大阪大学老年・総合内科学講座は附属病院では老年・高血圧内科病棟の入院患者に加え、総合診療科外来からの入院患者を担当します。老年内科のプロとして高齢者の幅広い病態を経験し、医学的・社会的に高齢者診療を行うことができることを目指します。また総合診療内科医として診断が不明の患者や総合的な治療が必要な患者を多く診療することから、プライマリー・ケアの力をつけることも目指します。

3) 大阪大学 老年・総合内科の特徴

当科が担当する疾患は主に、①老年病、②高血圧・高齢者糖尿病、③認知症、④プライマリー・ケアです。二次性高血圧や高齢者の心不全、神経変性疾患など診断・治療に専門的な知識を要するものから、市中肺炎や貧血などの common disease まで、多岐に渡ります。また、当科は女性医師も多く、子育てを行う女性にも柔軟に対応し、博士号や専門医を取得してもらっています。

① 老年病

退院後の生活を、いかに支え維持するかを念頭に置いた個別の治療を行う必要があり、教科書には書かれていないことを自分の頭で考え、実践する力が試されます。また、教科書に書かれていないことを、基礎研究と臨床研究の両面から新しく作っていく責任も負っており、高齢者に関するさまざまなガイドラインの作成に参加しています。

② 高血圧・高齢者糖尿病)

「高血圧内科」として、二次性高血圧や難治性高血圧に対する診断や治療を専門的に行っています。また高齢者の糖尿病について、糖尿病・内分泌・代謝内科とも連携して治療を行っています。

③ 認知症

主に他の施設から「もの忘れ外来」に紹介されてくる患者さんを対象に、認知症の診断と治療を行っています。認知症精査のための入院、各種検査、社会資源の導入をすすめています。

④ プライマリー・ケア

総合診療科は診断がついていない患者が紹介されてくるため、難解なパズルに挑戦していくことになります。診療科を超えて柔軟に考え、行動できる力が試されます。

消化器内科

1) 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	病棟				
	上部内視鏡 大腸内視鏡 R F A	上部内視鏡 大腸内視鏡	上部内視鏡 胆膵 EUS カプセル内視鏡	上部内視鏡 大腸内視鏡 R F A	上部内視鏡 カプセル内視鏡 R F A
午後	病棟				
	ESD 消化管 EUS 小腸内視鏡	胆膵 EUS/FNA ESD 消化管 EUS ERCP 小腸内視鏡	大腸内視鏡 胆膵 EUS/FNA 透視下処置	ESD 消化管 EUS ERCP 小腸内視鏡	大腸内視鏡 胆膵 EUS/FNA
	科長回診 症例検討会 内視鏡カンファ 肝臓診療検討会 消化管病理検討会 (1回/月)	診療局会	食道癌カンファ 胆膵処置症例カン ファ 肝胆膵病理カンフ ァ(1回/3週)	IBD 回診 消化管癌診療合同 カンファ 胆膵カンファ 肝病理カンファ (1 回/月)	ミニレクチャー カルテ回診 病棟回診

病棟患者の受け持ちを行いながら、上記の消化器内科病棟、内視鏡センター、放射線科での検査、治療のいくつかを担当します。担当症例に関係する検討会に参加します。

2) 学内・学外での教育の機会

大阪大学消化器内科では、消化器内科領域での種々・多数の疾患について高度な診療を経験し、病棟医長1名、病棟主任2名、病棟副主任4名の充実した体制により、きめ細かい指導を受けることができます。週1回の病棟カンファレンスでのミニレクチャーや診療局会における症例発表により、漫然とした診療を行わず、最新の医学的知識のアップデートとともに病態のより深い理解と診療技術の向上が得られます。さらには、学会や論文による発表や後述の関連病院との研究会への参加、発表により研鑽を積む機会を設けています。診療グループ別の回診・カンファレンスや、消化器外科、放射線科など多診療科・多職種が参加したカンファレンスが開催されており、さらに高度な診療プロセスを学ぶことができます。

3) 大阪大学 消化器内科の特徴

大阪大学消化器内科では、消化器内科の各領域における専門スタッフが指導医として診療に参加し、チーム医療を実践しています。ガイドライン等に基づいた通常の診断、治療を行うのみならず、最新のエビデンスに基づく最適な医療を提供するためのプロセスを学ぶことができます。さらに、種々のカンファレ

ンスや学会などを通じて最新の知識を得るとともに、診療能力を高めることができます。内視鏡検査、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）、ラジオ波焼灼療法（RFA）、内視鏡的逆行性胆管膵管造影（ERCP）など消化器内科疾患各領域における検査・処置が毎日行われており、高度医療を経験し、豊富な指導医から十分な指導を受けることができます。大阪大学消化器内科では最先端の臨床・基礎研究活動も行っており、それらの研究に参加することができます。さらに、大学内にとどまらず、関連病院と連携し Osaka Gut Forum, Osaka Liver Forum, Osaka Pancreas Forum という研究会を通じ、消化管、肝臓、胆膵疾患領域においての学術交流を図り、多施設共同研究を含む臨床研究の成果を国内外に発信しています。このような診療、研究活動を通じて内科・消化器病専門医にふさわしい人材を育成しています。

循環器内科

1) 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	カンファレンス (8:30-9:00)				
	重症心不全回診(9:00-)			科長回診 (9:00-)	
	病棟				
	PCI (ロータブレータ)	CAG/PCI	右心カテーテル、心筋生検	PCI	PCI
	CAG (移植後)	TAVI	CAG (移植後)	右心カテーテル、心筋生検	アブレーション
	アブレーション		アブレーション		デバイス植え込み
	デバイス植え込み		デバイス植え込み		
SHD治療 (MitraClipなど)					
心エコー	心エコー	心エコー	心エコー	心エコー	
午後	病棟				
	アブレーション	アブレーション	デバイス植え込み	PCI	アブレーション
	デバイス植え込み	TAVI	右心カテーテル、心筋生検		
	右心カテーテル				
	経食道心エコー (TEE)	TEE/心エコー	TEE/心エコー	TEE	TEE/心エコー
	RI	RI	エルゴ負荷	RI	
	心臓CT	心臓CT	心臓CT	心臓CT/MRI	心臓CT
		エルゴ負荷	エルゴ負荷	エルゴ負荷	エルゴ負荷
	SHDカンファ (外科合同)	多職種カンファレンス	心不全回診 (16:00-17:00)	ACHD合同カンファ (月1)	
		不整脈カンファレンス			
	重症心不全講義	抄読会(18:00-)			

2) 学内・学外での教育の機会

大阪大学循環器内科では病棟医長、各部門（急性期治療・心不全・虚血・不整脈・structural heart disease）の病棟主任およびシニアスタッフ約 15 人により、循環器領域のほぼ全ての疾患をカバーする診療体制をとっています。各部門はお互いに独立しているのではなく、全てのスタッフが全ての患者さんについて病態・治療方針を議論した上で、スペシャリストが今度な専門的治療を行うことを原則としています。専攻医の先生には病棟担当医として患者さんの診療に当たって頂き、その中で上級医の指導のもと、必要な検査治療手技（中心静脈カテーテル穿刺・心エコー・運動負荷検査・一時的ペースメーカー留置・スワンガンツカテーテルによる右心カテーテル検査など）を習得できます。また、治療方針はスタッフ全員による毎朝のカンファレンスで議論され、病態が刻々と変わる循環器疾患の診断・治療を身につけていただくことが可能です。さらに、学会や研究会での発表機会や症例報告など、自身の経験を発信するためのスキルについての指導も行っています。

3) 大阪大学 循環器内科の特徴

大阪大学循環器内科では、カテーテル検査のみならず、カテーテルによる虚血性心疾患治療（PCI）、不整脈治療（アブレーション、デバイス治療）、SHD 治療（TAVI, MitraClip, ASD 閉鎖術など）が毎日のように行われており、これらの手技への参加、および心臓血管外科や小児科など関連各科との合同カンファレンスを通じてより専門的な治療についての理解を深めることができます。特に、重症心不全に関しては心臓移植を含めたあらゆる治療可能性について日々議論がされており、本邦における最高の診療が行えることを目指しています。

伝統的に大阪府下・阪神間の多くの病院と緊密に連携しているのも大きな特徴であり、関連病院で組織する大阪循環器部会（OCVC）においては心不全・不整脈・虚血性心疾患の多施設共同研究が行われています。さらに、診療の過程で生じた疑問を、ヒトサンプルを用いた臨床・基礎研究によって解決していくために HSC（Human Sample Center）が開設され、さらに心筋症病態解明のためのプラットフォームとして心筋症センターが稼働予定であります。

このような診療・研究体制に関わっていただくことによって、現在最高レベルの医療を行うだけでなく、将来さらにそのレベルを上げていける人材を育成したいと考えています。

糖尿病・内分泌・代謝内科

1) 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	病棟 負荷試験 受け持ち患者 の把握	病棟 負荷試験 受け持ち患者 の把握	病棟 負荷試験 受け持ち患者 の把握	病棟 負荷試験 受け持ち患者 の把握	病棟 負荷試験 受け持ち患者 の把握
	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟
午後		グループ カンファレンス			教授回診
	糖尿病教室	グループ回診		糖尿病教室	
	病棟	症例検討会	グローバル ミーティング	ミニカンファレンス	ミニカンファレンス
		診療局会議			

2) 学内・学外での教育の機会

学内では、年 4 回の内科系セミナーが開催されており、内科系各領域のエキスパートの講演を聞く機会があります。また、毎週水曜日 18 時から、グローバルミーティングが行われており、各研究室の研究進捗

状況や病棟での貴重な症例の検討会を実施、さらには院内の関連診療科の講師を招いて最新の医療情報を講義いただくこともあります。学外では、大阪内分泌・代謝臨床カンファレンス（OEMCC）を6月に開催し、大学および関連施設の研修医・指導医が一同に会して症例発表会を実施し、研修医教育を実施しています。また最前線の医学を学ぶため、大阪内分泌代謝カンファレンス、Hokusetsu Target Organ Protection Forum、Meet The Expert Conference、糖尿病と多臓器障害予防の研究会を開催、さらに市民講座「もっと知りたい下垂体の病気のこと」（年2回）を開催して、患者さんや一般市民との交流の機会も設けています。

3) 大阪大学 内分泌・代謝内科の特徴

一般臨床で経験する事の多い common disease の基本的診断・治療のみならず、稀少疾患、難治疾患も幅広く経験できます。専門医取得に必要な専門性の高い疾患を含めて、幅広く症例を経験することが可能です。一例一例について深く病態分析を行うことが当科のモットーです。当科では初期研修医2-3名に対して、卒後6年前後の病棟担当医が10名、卒後10年前後の上級医が4名、また研修医を含めこれら医師を統括する卒後15年前後の医師2名が、病棟において診療に当たっており、内科専攻医には医学部学生および初期研修医の指導にも従事してもらいます。症例毎に複数の上級医が指導を担当し、様々な臨床経験を積んだ多くの先輩医師の考え、技術を学ぶことが可能です。また、大学ならではの研究会、症例発表会など、上記以外にも数多く開催しており、そうした場において発表する機会も与えられます。

腎臓内科

1) 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	血液浄化療法				
			腎生検		
午後	血液浄化療法				
		PD カンファレンス			
		科長回診			
		医局会 病理検討会 リサーチミーティング		透析カンファレンス 病棟カンファレンス	腎臓内科レクチャー（不定期）

2) 学内・学外での教育の機会

(学内)

年4回の内科系セミナー：内科系各領域の最新情報等の講演

毎週火曜日 17時30分から：病理検討会、リサーチミーティング

不定期：腎臓内科レクチャー

毎週火曜日の腎病理検討会では、腎生検で得られた組織を提示し、各腎疾患の病態の詳細な把握と議論を

通して、今後の治療方針を決定します。その後のリサーチミーティングでは、現在の研究の進捗状況を定期的に報告し、基礎および臨床研究の質の向上を図ります。

毎週火曜日と木曜日のカンファレンス・回診では、各症例について問題点の把握、今後の治療方針を詳細に確認・検討します。

(学外)

大阪腎疾患研究会 (OCKD)、年 4 回

阪大腎病理カンファレンス、年 2 回

腎疾患セミナー、年 1 回

若手腎臓内科医のための臨床研究セミナー、年 2 回

3) 大阪大学 腎臓内科の特徴

当科では、主として保存期腎不全に伴う水電解質バランスの異常、骨代謝異常等のさまざまな合併症に対する治療を行っています。他科からの依頼が主科とほぼ同数あり、幅広い疾患に対する知識と病態の理解が必要になるため、全身の臓器と腎との連関を学ぶことができます。また、ネフローゼ症候群や IgA 腎症を中心に年間 60 例程度 (免疫内科からの依頼含む) 腎生検を行い、診断および治療を行うとともに、末期腎不全の血液透析あるいは腹膜透析導入や、透析合併症の治療も行います。血液浄化療法では、透析の他にも血漿交換や抗体除去等の様々な血液浄化を学びます。腹膜透析の症例数も多く、導入や腹膜機能検査、腹膜透析特有の合併症治療等を経験することができます。さらに、当院の特徴である心・肝・肺移植治療に伴う腎合併症症例や、腎移植症例も数多く経験することができます。経験した症例は、大阪大学腎臓内科が主催する大阪腎疾患研究会 (OCKD) や腎臓学会等で積極的に報告し、議論を深めます。また、多数の治験や臨床研究も行われており、臨床医としての研究業務に携わることにより、リサーチマインドを育むことができます。

呼吸器内科

1) 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前			(気管支鏡)		
午後	気管支鏡			気管支鏡	全体カンファ 教授・科長回診
夕方	病棟担当医カンファ 呼吸器合同カンファ (外科・放射線科)				医局カンファ

2) 学内・学外での教育の機会

*抄読会：全体カンファで持ち回りで担当。

*研究会・セミナー：医局主催で年 10～20 回程度 (場所は学内・学外いずれもあり)、若手の発表の機会

も多い。

*症例発表会：地方会の発表は、基本的に初期～後期研修医が第一演者を担当（内科学会、呼吸器学会、肺癌学会、気管支内視鏡学会）。

3) 大阪大学 呼吸器内科の特徴

*最大の特徴は、呼吸器センターとして内科・外科共通の病棟で診療していることです。メリットはかなり大きく、センター化により格段に診療レベルがアップしました。

*トランスレーショナルリサーチ：自らの基礎研究に基づいた、バイオマーカー検索や新規治療標的の評価など、大学のアドバンテージを活かした医療を行っています。

*治験・臨床試験：阪大独自の臨床試験を積極的に行い、かつ、多施設共同の臨床試験にも加わり、エビデンスの確立に寄与しています。

*希少疾患・特殊な医療：一般医療機関のみでなく呼吸器専門施設でも比較的珍しい希少疾患や、肺移植症例の診療に携わります。

血液腫瘍内科

1) 週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土・日		
午前	受け持ち患者情報の把握					週末日直 (2回程度/月)		
	病棟							
午後	教授回診	病棟						
	病棟							
	医局会・研究発表会	移植カンファレンス	入院カンファレンス (入院予定症例検討)	病棟カンファレンス (入院中患者検討) 病理検討会(1/月)	研究会(不定期)			

2) 学内・学外での教育の機会

(学内)研究発表会/抄読会（1週おきに交代）

(学外)各種学会参加・発表（日本血液学会、日本内科学会地方会、近畿血液学地方会など）、研究会（各分野のエキスパートを招集しての講演会、不定期開催）

3) 大阪大学 血液腫瘍内科の特徴

血液内科は研究と臨床が極めて近く、最新の研究成果がすぐに臨床試験開発、画期的な新薬の登場につながっています。実際毎年多くの血液腫瘍に対する分子標的薬が開発され、免疫療法など新たな治療法開発も盛んです。例えば、15年前までは患者さんに大変な負担のかかる骨髄移植が治療の主流であった慢性骨髄性白血病は、今や飲み薬だけで長期生存が可能となりました。特にここ数年の進歩は著しく、治療のガイドラインも頻繁に更新されるなど、大幅なスピードで“治る血液疾患”に近づいています。当科でも数多くの新規薬剤の治験や新たな治療法の臨床試験を扱っており、また難治疾患の研究のための臨床試験、患者検体を用いた基礎研究も積極的に行っています。大阪大学には関連病院などから難治疾患、希少疾患

などが多く紹介されてきますが、臨床試験を含む最新の治療や、骨髄移植を含めた集学的な治療に触れることを通じ、血液分野における診療のダイナミックな、かつ現在進行している発展を体感できることでしょう。

【臨床】

- ・臨床試験を含む、先端的な治療
- ・造血幹細胞移植（同種、自家）
- ・大阪府下の関連病院をはじめとして他院より紹介される、難治症例や診断困難症例、稀少な症例（先天性の止血異常などを含む）

【研究】

- ・臨床研究（New England Journal of Medicine など論文多数）
- ・基礎研究（Immunity, Blood など論文多数）

神経内科・脳卒中科

1) 週間スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	その他
大阪大学	8時半： 早朝カンファ 18時 脳卒中センターカンファ	13時半： 症例カンファ 教授回診 18時： 症例検討会 抄読会	8時半： 早朝カンファ	8時半： 早朝カンファ 16時： 神経内科カンファ	8時半： 早朝カンファ 17時： 脳循環カンファ	1回/月 DBS カンファ 1回/月 疼痛カンファ 1回/月 遺伝子診療部カンファ 1回/月 てんかんカンファ

2) 学内・学外での教育の機会

病棟は SCU3 床を含む計 3 2 床で運営しており、入院症例は、翌日のモーニングカンファレンスで、担当研修医、主治医が発表、検査治療方針を議論し、チーム医療、教育を実践しています。また、当科は救命救急センター、脳神経外科の協力のもと急性期脳卒中、脳炎、多発性硬化症、ギラン・バレー症候群などの神経救急疾患も積極的に受け入れています。火曜日のカンファレンス、教授回診の後、毎週、興味深い症例についての症例検討会、研修医による研修終了時症例発表会を行っています。毎週月曜日夕方の脳外科、救命センターとの合同での脳卒中カンファレンスにおいては、全脳卒中症例の治療方針、外科治療、血管内治療の適応につき、総合的な検討を行っています。脳深部刺激療法（DBS）カンファレンスでは、パーキンソン病やその関連疾患に対する機能外科治療の検討をしており、その他診療科を超えて、疼痛カンファレンス、遺伝子診療部カンファレンス、てんかんセンターカンファレンスも定期的に開かれています。学外教育では、2 か月に 1 回程度、初期・後期研修医のための神経内科・脳卒中科勉強会において、診療の妙諦や最新の知見を関連病院の部長の先生方にお話し頂き、神経内科レジデント懇話会では、外部の御高名な先生をお招きし、症例報告、教育講演を頂いております。また、新難病対策法ができ、医師会の協力の

もと、主治医が地域かかりつけ医のもとに直接同行し、難病・在宅医療への取り組みも積極的に大阪大学病院が中心となり運営しています。

3) 大阪大学 神経内科・脳卒中科の特徴

大阪大学神経内科においては、パーキンソン病を中心とする神経変性疾患、神経免疫、筋疾患、脳血管障害の各専門家が揃い、より良い診療にむけて、多様な観点からみた有意義な討論を常におこなっております。又、救命救急センター、脳神経外科の協力のもと、急性期脳血管障害、神経救急も積極的に受け入れており、特に神経内科疾患と脳卒中（超急性期脳梗塞症例に対しての脳血管内治療の実践も含めた）の両者を、十分な指導体制のもと勉強できます。また診療科の垣根を超えて、院内外の密接な連携をとりながら、神経疾患に対して、総合的な観点から勉強できる体制にあります。

免疫内科

1) 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前					
午後	関節エコー検査	病棟医検討会	検討会・回診・抄読会		病棟医検討会
19時～		臨床勉強会			

2) 学内・学外での教育の機会

年2回（3、10月）に大学と関連病院合同で、症例検討・セミナー・懇親会を開催しています。大阪大学は免疫学研究が非常に盛んで、学内では免疫学関連セミナーが多く開かれており、適宜参加し免疫学研究の最前線を学び臨床への橋渡しを考えていきます。

3) 大阪大学 免疫・アレルギー内科の特徴

免疫アレルギー内科は生体防御機構である免疫系の異常に基づく疾患を診療対象とします。減弱による免疫不全症、過剰応答によるアレルギー疾患、破綻による自己免疫疾患に分けられます。自己免疫疾患は、単一の臓器が障害を受ける臓器特異的自己免疫疾患と、全身の臓器が障害を受ける全身性自己免疫疾患に分類されますが、当科は主に全身性自己免疫疾患を診療対象としています。臨床症状から「リウマチ性疾患」、病理学的には「膠原病」、原因機構から「免疫疾患」などと呼ばれる疾患群です。肺、血液、腎臓、関節、皮膚、筋肉、神経など免疫疾患によって冒される臓器は多岐にわたるため、常に多臓器に横断的な注意を払うことが当科の特徴です。また、多くの全身性自己免疫疾患は指定難病であり専門性の高い診療分野です。

疾患内訳では、外来では関節リウマチと類縁疾患、各種膠原病維持期、気管支喘息などのアレルギー疾患が多く、先天性や後天性免疫不全症も外来で管理しています。入院ではSLE、多発性筋炎、皮膚筋炎、強皮症、混合性結合組織病などの膠原病急性期、大～小血管炎、ベーチェット病などの炎症性疾患急性期、膠原病に伴う間質性肺炎増悪期、アレルギー疾患では好酸球増多症候群、IgG4関連疾患などの診断と治療導入を行います。ステロイド治療に伴う代謝異常や、免疫抑制剤使用中の感染症のリスク評価、診

断、治療も行ないます。また、不明熱の原因を同定するなど炎症の専門家としての診療を行います。若いSLE患者から高齢者のリウマチ性疾患まで幅広い年齢層を診療対象とし、急性期から慢性期まで診療して行きます。免疫学の進歩で免疫制御蛋白質を標的とする治療法（生物学的製剤）が普及し、免疫抑制剤の使用法も洗練されてきています。免疫疾患は治療が奏功する事が多く、内科医としての満足感が得られるでしょう。

研修では多様な症例を受け持ち、多くの経験ができるように配慮されます。当科での研修により、全身を診る内科医の基本的研修に加え、専門性の高い自己免疫疾患、アレルギー疾患、免疫不全症などの診断、治療を経験することができます。内科専門医取得後は、当科ではリウマチ専門医、アレルギー専門医を取得することを目標としています。

別表資料B

内科基本コース KKRパターン

専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	病棟1		病棟2			病棟3			病棟4			
	ローテートする診療科により、副当直医として当直業務を1回/月以上行う											
	1年目にJMECCを受講											
2年目	病棟5		病棟6			病棟7			予備(不足症例用)			
	ローテートする診療科により、副当直医として当直業務を1回/月以上行う											
										専門医取得のための病歴要約提出準備		
3年目	連携施設 A											
	初診+再診外来 週に1回 6か月以上担当											
	1回/月以上の当直業務を6か月以上行う											
その他の要件	医療倫理、医療安全、感染防御に関する講習会 年に2回以上の出席											

1～2年目は原則各科をローテートして偏りなく症例を経験していくが、疾患によっては入院が長期にわたり、長期の担当が必要な症例もあるため、複数の診療科をまたいで症例を担当することもある。

別表資料B

内科基本コース RRKパターン

専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	連携施設 A (common diseaseと地域医療を経験)											
	1回/月以上の当直業務を6か月以上行う											
	1年目にJMECCを受講											
2年目	連携施設 A (common diseaseと地域医療を経験)											
	初診+再診外来 週に1回 6か月以上担当								専門医取得のための病歴要約提出準備			
	1回/月以上の当直業務を6か月以上行う											
3年目	病棟1	病棟2	病棟3	病棟4	病棟5	病棟6						
	基幹施設で難治性疾患、希少疾患を重点的に研修											
	ローテートする診療科により、副当直医として当直業務を1回/月以上行う											
その他の要件	医療倫理、医療安全、感染防御に関する講習会 年に2回以上の出席											

3年目の基幹施設での研修は、原則各科をローテートしていくが、疾患によっては入院が長期にわたり、長期の担当が必要な症例もあるため、複数の診療科をまたいで症例を担当することもある。

別表資料B

Subspecialty重点コース KKRパターン

専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	病棟1		病棟2			病棟3			病棟4			
	ローテートする診療科により、副当直医として当直業務を1回/月以上行う											
	1年目にJMECCを受講											
2年目	病棟5		病棟6			病棟7			予備(不足症例用)			
	ローテートする診療科により、副当直医として当直業務を1回/月以上行う											
										専門医取得のための病歴要約提出準備		
3年目	連携施設B (Subspecialty領域を重点的に研修)											
	初診+再診外来 週に1回 6か月以上担当											
	1回/月以上の当直業務を6か月以上行う											
その他の要件	医療倫理、医療安全、感染防御に関する講習会 年に2回以上の出席											

1～2年目は原則各科をローテートして偏りなく症例を経験していくが、疾患によっては入院が長期にわたり、長期の担当が必要な症例もあるため、複数の診療科をまたいで症例を担当することもある。

別表資料B

Subspecialty重点コース KRRパターン

専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	病棟1		病棟2			病棟3			病棟4			
	ローテートする診療科により、副当直医として当直業務を1回/月以上行う											
	1年目にJMECCを受講											
2年目	連携施設A（1年目にローテートしてない領域を研修）											
	初診+再診外来 週に1回 6か月以上担当											
	1回/月以上の当直業務を6か月以上行う									専門医取得のための病歴要約提出準備		
3年目	連携施設B（Subspecialty領域を重点的に研修するとともに充足していない症例を経験） （1年目の3か月と合わせてSubspecialty領域重点研修期間は最長1年とします）											
その他の要件	医療倫理、医療安全、感染防御に関する講習会 年に2回以上の出席											

1年目は原則各科をローテートして偏りなく症例を経験していくが、疾患によっては入院が長期にわたり、長期の担当が必要な症例もあるため、複数の診療科をまたいで症例を担当することもある。

別表資料B

Subspecialty重点コース RRKパターン

専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	連携施設A (common diseaseと地域医療を経験)											
	1回/月以上の当直業務を6か月以上行う											
	1年目にJMECCを受講											
2年目	連携施設A (common diseaseと地域医療を経験)											
	初診+再診外来 週に1回 6か月以上担当									専門医取得のための病歴要約提出準備		
	1回/月以上の当直業務を6か月以上行う											
3年目	基幹施設(Subspecialty領域を重点的に研修するとともに不足症例を経験) (希望に応じて、臨床系大学院に入学のうえ、Subspecialty領域を研修します)											
	選択するSubspecialty領域により、副当直医として当直業務を1回/月以上行う											
その他の要件	医療倫理、医療安全、感染防御に関する講習会 年に2回以上の出席											

別表資料B

Subspecialty重点コース RKKパターン

専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	連携施設A (common diseaseと地域医療を経験)											
	1回/月以上の当直業務を6か月以上行う											
	1年目にJMECCを受講											
2年目	病棟1	病棟2	病棟3	病棟4	病棟5	病棟6						
										専門医取得のための病歴要約提出準備		
3年目	主科 (希望に応じて、臨床系大学院に入学のうえ、Subspecialty領域を重点的に研修します)											
	初診+再診外来 週に1回 6か月以上担当											
	選択するSubspecialty領域により、副当直医として当直業務を1回/月以上行う											
その他の要件	医療倫理、医療安全、感染防御に関する講習会 年に2回以上の出席											

2年目は原則各科をローテートして不足症例を経験していくが、疾患によっては入院が長期にわたり、長期の担当が必要な症例もあるため、複数の診療科をまたいで症例を担当することもある。

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 ・非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する施設（キャンパスライフ健康支援・相談センター）が、大阪大学吹田キャンパス内（病院と同敷地内）にあります。 ・ハラスメント対策委員会が院内総務課に設置されています。また、ハラスメント相談室が大阪大学吹田キャンパス内（病院と同敷地内）に設定されており、病院職員の一人が相談員として従事しており、院内職員も利用可能です。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、ロッカー、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・病院と同敷地内に大阪大学学内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 102 名在籍しています(2023 年度)。 ・プログラム管理委員会および研修委員会を設置しています。 ・プログラム管理委員会は、基幹施設および連携施設の研修委員会と連携をはかり、専攻医の研修を管理します。 ・医療倫理、医療安全、感染対策の各講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC（内科系）を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに登録している全ての専攻医に JMECC 受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・施設実地調査に対して、研修委員会が真摯に対応します。
<p>認定基準 【整備基準 23】 3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 11 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。また、70 疾患群のうち 35 以上の疾患群について研修できる症例を診療しています。専門研修に必要な剖検を適切に行います。</p>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究が定常的に行われており、臨床研究のための講習会も定期的に行われています。 ・大阪大学臨床研究倫理委員会（認定番号 CRB5180007）、介入研究等・観察研究等倫理審査委員会が設置されています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>プログラム統括責任者 保仙直毅 副プログラム統括責任者 坂田泰史 研修委員会委員長 保仙直毅</p>
<p>指導医数（常勤）</p>	<p>(2023 年度) 日本内科学会指導医 102 名</p>

	<p>総合内科専門医 143 名</p> <p>内科学会指導医のうち、以下の専門医が定常的に在籍しています。</p> <p>日本消化器病学会消化器専門医、日本肝臓病学会専門医</p> <p>日本循環器学会循環器専門医、日本糖尿病学会専門医</p> <p>日本内分泌学会専門医、日本腎臓病学会専門医</p> <p>日本呼吸器学会呼吸器専門医、日本血液学会血液専門医</p> <p>日本神経学会神経内科専門医、日本アレルギー学会専門医（内科）</p> <p>日本リウマチ学会専門医、日本老年病医学会専門医</p> <p>JMECC ディレクター 1 名、JMECC インストラクター 10 名</p>
<p>外来・入院 患者数 （内科系）</p>	<p>2023 年度実績 外来患者延べ数 202,595 名、退院患者数 5,937 名 （病院許可病床数 一般 1034 床、精神 52 床）</p> <p>2023 年度 入院患者延べ数 97,035 名（循環器内科 16,372 名、腎臓内科 6,150 名、消化器内科 16,811 名、糖尿病・内分泌・代謝内科 6,514 名、呼吸器内科 9,697 名、免疫内科 7,074 名、血液・腫瘍内科 12,895 名、老年・高血圧内科 4,063 名、神経内科・脳卒中科 11,522 名）</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>研修手帳（疾患群項目表）にある内科 11 領域、50 疾患群の症例を経験することができます。このほか、ICU と連携して ICU のローテーション研修を経験することが可能です。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく、慢性疾患、希少疾患、さらに高度先進医療を経験できます。また、豊能医療圏における地域医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
<p>学会認定施設 （内科系）</p>	<p>日本内科学会認定医制度教育施設</p> <p>日本消化器病学会認定施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会認定施設</p> <p>日本肝臓学会認定施設</p> <p>日本循環器学会専門医研修施設</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設</p> <p>日本内分泌学会内分泌科認定教育施設</p> <p>日本甲状腺学会認定専門医施設</p> <p>日本腎臓学会研修施設</p> <p>日本透析医学会認定施設</p> <p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本呼吸器内視鏡学会認定施設</p> <p>日本血液学会研修施設</p> <p>日本神経学会専門医制度認定教育施設</p> <p>日本アレルギー学会認定教育施設</p> <p>日本リウマチ学会教育施設</p> <p>日本老年病医学会認定教育施設</p> <p>日本高血圧学会専門医認定施設</p>

連携施設

1. 市立池田病院

<p>認定基準 【整備基準24】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・医師臨床研修制度基幹型臨床研修病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境、Wi-Fi環境があります。 ・池田市非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（臨床心理士担当）があります。 ・ハラスメント委員会が池田市役所に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<p>日本内科学会指導医は23名在籍しています。（2024年4月現在）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内科専門研修プログラム管理委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、連携施設に設置されている研修委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2023年度実績計6回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的開催（2022年度実績6回、2023年度実績2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病病・病診連携カンファレンス）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準24】 3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域15領域のうち12領域（アレルギー、膠原病、感染症を除く）では定常的に、アレルギー、膠原病、感染症領域も非常勤医と連携して専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準 【整備基準24】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計10演題以上の学会発表（2021年度実績7演題、2022年度実績11演題）をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>石田 永(1名) 【内科専攻医へのメッセージ】 市立池田病院は、大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院であり、同じ医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、GeneralityとSubspecialityとのどちらも追及できる可塑性があって、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p>
<p>指導医数（常勤）</p>	<p>日本内科学会指導医23名、日本内科学会総合内科専門医19名、日本消化器病学会消化器専門医8名、日本肝臓学会肝臓専門医8名、日本循環器学会循環器専門医5名、日本内分泌学会内分泌専門医2名、日本糖尿病学会糖尿病専門医2名、日本腎臓学会腎臓専門医2名、日本呼吸器学会呼吸器専門医4名、日本血液学会血液専門医2名、日本神経学会神経内科専門医3名ほか</p>
<p>外来・入院患者数(内科系)</p>	<p>外来延患者数 321人/日 新入院患者数365人/月 (2023年度)</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、<u>研修手帳（疾患群項目表）</u>にある15領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p><u>技術・技能評価手帳</u>にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
<p>学会認定施設（内科系）</p>	<p>日本肝臓学会認定施設 日本血液学会研修認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本透析医学会専門医認定施設 日本透析医学会教育関連施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本腎臓学会研修施設</p>

	日本神経学会専門医制度認定准教育施設 日本臨床細胞学会施設 日本アレルギー学会認定准教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本栄養治療学会 NST（栄養サポートチーム）稼働施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本血液学会研修認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本透析医学会専門医認定施設 日本透析医学会教育関連施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本神経学会専門医制度認定准教育施設 日本臨床細胞学会施設 日本アレルギー学会認定准教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本栄養治療学会 NST（栄養サポートチーム）稼働施設 日本緩和医療学会認定研修施設
--	---

2. 市立豊中病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境、Wi-Fi 環境があります。 ・豊中市非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が病院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 25 名在籍しています（2024 年 4 月 1 日現在）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と教育研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策の各講習会を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的の主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（北大阪内科研究会、豊中糖尿病勉強会、豊中消化器病懇話会、北摂内視鏡治療研究会、待兼山神経懇話会、北摂血液疾患談話会、中之島循環器代謝フォーラムなど）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務

	<p>付け、そのための時間的余裕を与えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2023 年度開催実績 1 回）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に教育研修センターが対応します。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23/31】</p> <p>3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2019 年度 2 体、2020 年度 6 体、2021 年度 9 体、2022 年度 8 体、2023 年度 7 体）を行っています。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室、臨床研究センターを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的を開催しています。 ・治験審査委員会を設置し、定期的に治験審査委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています（2023 年度実績 9 演題）。
<p>指導責任者</p>	<p>小杉 智（内科主任部長、血液内科主任部長）</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>市立豊中病院は、大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院であり、豊能医療圏・近隣医療圏にある連携施設で内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p> <p>主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
<p>指導医数</p> <p>（常勤内科医）</p> <p>2022 年 4 月 1 日現在</p>	<p>日本内科学会指導医 25 名，日本内科学会総合内科専門医 25 名</p> <p>日本専門医機構認定（新）内科専門医 4 名</p> <p>日本消化器病学会消化器専門医 9 名，日本肝臓病学会専門医 6 名</p> <p>日本循環器学会循環器専門医 9 名，日本糖尿病学会専門医 3 名，</p> <p>日本内分泌学会専門医 3 名、日本腎臓病学会専門医 4 名，</p> <p>日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名，日本血液学会血液専門医 4 名，日本神経学会神経内科専門医 4 名，日本アレルギー学会専門医 1 名、日本臨床腫瘍学会専門医 2 名、日本内視鏡学会専門医 6 名</p>
<p>外来・入院患者数</p> <p>（内科系）</p>	<p>外来延患者数 114,021 名/年（2023 年度）</p> <p>入院件数 6,519 件/年（2023 年度）</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。</p>
<p>学会認定施設</p> <p>（内科系）</p>	<p>日本内科学会認定医制度教育病院</p> <p>日本消化器病学会認定施設</p>

	<p>日本肝臓学会認定施設</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p> <p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本血液学会認定血液研修施設</p> <p>日本腎臓学会認定教育施設</p> <p>日本神経学会専門医制度教育施設</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設</p> <p>日本内分泌学会認定教育施設</p> <p>日本救急医学会救急科専門医指定施設</p> <p>日本高血圧学会専門医認定施設</p> <p>日本脳卒中学会研修教育施設</p> <p>日本透析医学会専門医制度認定施設</p> <p>日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会指導施設</p> <p>日本臨床腫瘍学会認定研修施設</p> <p>日本がん治療認定医機構認定研修施設など</p>
--	--

3. 箕面市立病院

<p>認定基準</p> <p>[整備基準 24]</p> <p>1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・任期付職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（事務局病院人事室）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準</p> <p>[整備基準 24]</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<p>指導医は 14 名在籍しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設及び連携施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会等を定期的開催（2023 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催（2023 年度実績 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（箕面市病診連携懇談会、研修会、箕面市立病院登録医意見会研修会）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

認定基準 [整備基準 24] 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 12 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2023 年度実績 2 体、2022 年度実績 2 体、2021 年度実績 3 体、2020 年度実績 6 体、2019 年度実績 12 体、2018 年度実績 12 体、2017 年度実績 8 体）を行っています。
認定基準 [整備基準 24] 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理委員会を設置し、定期的開催しています（2023 年度実績 5 回）。 ・治験審査委員会を設置し、定期的受託研究審査会を開催しています（2023 年度実績 2 回）。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	<p>森谷 真之</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>箕面市立病院は、豊能医療圏の中心的な急性期病院のひとつであり、大阪大学医学部附属病院および、豊能医療圏および阪神地域の医療圏の病院などと連携して内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。</p>
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医 14 名、日本内科学会総合内科専門医 9 名、日本消化器病学会消化器病専門医 5 名、日本肝臓病学会肝臓専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 2 名、日本腎臓病学会腎臓専門医 1 名（内科 0 名）、日本呼吸器学会呼吸器専門医 0 名、日本血液学会血液専門医 4 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本アレルギー学会専門医 0 名、日本リウマチ学会リウマチ専門医 1 名（内科 0 名）、日本感染症学会感染症専門医 0 名、日本救急医学会救急科専門医 1 名、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 3 名
外来・入院患者数 （内科系）	<p>外来延患者数 158,625 名/年（2023 年度）</p> <p>入院延患者数名 77,515/年（2023 年度）</p>
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術、技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術、技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	<p>日本内科学会認定医制度教育病院</p> <p>日本消化器病学会認定施設</p> <p>日本循環器学会循環器専門医研修施設</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設</p> <p>日本血液学会血液研修施設</p> <p>日本神経学会専門医制度認定教育施設</p> <p>日本肝臓学会認定施設</p> <p>日本高血圧学会専門医認定施設</p>

	日本消化器内視鏡学会指導施設 日本静脈経腸栄養学会NST稼働認定施設 など
--	---

4. 国立循環器病研究センター病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ ハラスメント相談窓口が人事課に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医は 60 名在籍しています。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2021 年度実績各 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的開催（2021 年度実績 10 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（病病、病診連携カンファレンス 2021 年度実績 2 回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 5 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ 専門研修に必要な剖検を行っています。（2020 年度 26 体、2021 年度 28 体）
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床研究が可能な環境が整っています。 ・ 倫理委員会が設置されています。 ・ 臨床研究推進センターが設置されています。 ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2019 年度実績 4 演題）をしています。また、内科系学会への学会発表にも積極的に取り組んでいます（2020 年度 257 演題）
指導責任者	野口 暉夫（副院長、心臓血管内科部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 国立循環器病研究センターは、豊能医療圏の中心的な急性期病院であり、基幹施設と連携して内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。

指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 60 名 日本内科学会総合内科専門医 45 名 日本循環器学会循環器専門医 42 名 日本糖尿病学会専門医 12 名 日本内分泌学会専門医 6 名 日本腎臓病学会専門医 4 名 日本神経学会神経内科専門医 21 名 日本老年医学会専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 637 名 (1 日平均) 新入院患者 1036 名 (月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 5 領域、24 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本超音波医学会研修施設 日本透析医学会研修施設 日本脳卒中学会研修施設 日本高血圧学会研修施設 など

5. 国立病院機構大阪刀根山医療センター

認定基準 [整備基準 24] 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署 (窓口: 管理課) があります。 ・ハラスメントに適切に対処する部署 (窓口: 管理課) があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です (定期利用のみ)。
認定基準 [整備基準 24] 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 指導医は 13 名在籍しています (2024 年 4 月現在) ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理。医療安全。感染対策講習会を定期的に行います (2023 年度実績 12 回)

	<p>し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</p> <p>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</p> <p>・CPC を定期的に開催（2023 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</p> <p>・地域参加型のカンファレンス（病病、病診連携カンファレンス）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</p>
<p>認定基準 [整備基準 24] 3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 2 分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています（呼吸器 脳神経）。</p> <p>専門研修に必要な剖検（2023 年度 9 体）を行っています。</p>
<p>認定基準 [整備基準 24] 4) 学術活動の環境</p>	<p>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2023 年度実績 2 演題）をしています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>松村 剛（内科学会指導医/総合内科専門医）</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>国立病院機構大阪刀根山医療センターは、豊中市にある呼吸器疾患と神経筋疾患の専門病院であり、両領域の基幹施設です。基幹施設と連携して内科専門研修を行います。専攻医の研修目的に合わせたプログラムで、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。</p>
<p>指導医数（常勤）</p>	<p>日本内科学会指導医 13 名、日本内科学会総合内科専門医 13 名</p> <p>日本呼吸器学会呼吸器専門医 9 名、</p> <p>日本神経学会神経内科専門医 11 名、</p>
<p>外来・入院 患者数 （内科系）</p>	<p>外来患者 40,387 名（平均延数 3,365/月）</p> <p>新入院患者 1,655 名（平均数/137 月）</p> <p>（2023 年度）</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 2 領域、15 疾患群の症例を経験することができます。（詳細はお問い合わせください）</p>
<p>経験できる技術・ 技能</p>	<p>技術。技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術。技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医療・ 診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく、高齢化社会に対応した地域に根ざした医療、慢性疾患の診療を通して病診。病病連携なども経験できます。</p>
<p>学会認定施設 （内科系）</p>	<p>日本内科学会認定医制度教育病院</p> <p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設</p> <p>日本神経学会専門医制度認定教育施設</p> <p>日本臨床腫瘍学会認定研修施設</p> <p>日本がん治療認定医機構認定研修施設</p> <p>日本リハビリテーション医学会認定研修施設</p> <p>日本リウマチ学会教育施設 など</p>

6. 住友病院

<p>認定基準 【整備基準24】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・専攻医各個人に1つずつ座席とロッカーが与えられます。 ・研修に必要なインターネット環境があります。各個人にそれぞれ1台のPC端末が貸与され常に電子カルテにアクセス可能です。カルテからの情報収集やカルテ記載のために順番待ちをするということはありません。 ・また図書室は24時間使用可能です。100種以上の英文ジャーナルを定期購読しており、専任の司書が存在するので文献検索も容易です。 ・一般財団法人住友病院常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・院内のレストランは昼食、夕食に利用可能で、病院からの補助があるので 1食 350～400円程度で質、量ともに満足できます。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は36名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者・副院長）、にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2023年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・病診連携や病病連携など地域参加型のカンファレンス（基幹施設：中之島地域医療セミナー、臨床集談会、北大阪生活習慣病病診連携をすすめる会、SOK s の会（循環器）、新大阪腎疾患カンファレンス、大阪血液疾患談話会、神経内科の集い、大阪肝疾患臨床検討会OLD-CC、呼吸器CRPカンファレンス、なにわ緩和ケアカンファレンス、など；年間60～70回）を定期的開催し、ローテート中の専攻医に受講を勧め、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（院内開催）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
<p>認定基準 【整備基準24】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2021年度実績12体、2022年度4体、2023年度7体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準24】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室、医学写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的開催（2023年度実績11回）しています。

4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2023年度実績11回）しています。 ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2021年度実績10演題、2022年度実績10演題、2023年度実績10演題）をしています。 ・ 専攻医が学会に参加・発表する機会が多くあり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。在籍中に筆頭著者として英文論文を複数発表した専攻医も過去に何人もいます。
指導責任者	<p>山本 浩司</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院は大阪医療圏の中心的な急性期病院の一つであり、近隣医療圏にある多くの連携施設と併せて内科専門研修を行っています。</p> <p>急性期から慢性期まで、また、common diseaseから専門性の高い疾患の高度医療に至るまで、できる限り多くの症例を主担当医として経験し幅広い知識・技術を習得して頂くとともに、患者の社会的背景の把握、療養環境調整など全人的な医療を実践でき、地域医療にも貢献できる内科専門医の養成を目標としています。</p> <p>診療科・出身医局・職種間の垣根が低く、連携・協力関係が極めて良好であるという当院の特色を生かして研修に邁進して頂きたいと思えます。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医36名、日本内科学会総合内科専門医27名</p> <p>日本消化器病学会消化器専門医9名、日本循環器学会循環器専門医6名、</p> <p>日本糖尿病学会専門医6名、日本内分泌学会専門医2名、</p> <p>日本腎臓学会専門医6名、日本呼吸器学会呼吸器専門医2名、</p> <p>日本血液学会血液専門医3名、日本神経学会神経内科専門医8名、</p> <p>日本アレルギー学会専門医1名、日本リウマチ学会専門医4名、</p> <p>日本救急医学会救急科専門医3名、ほか</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者1,211名（1日平均） 入院患者318名（1日平均）</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて、専攻医登録評価システム（J-OSLER）（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院</p> <p>日本消化器病学会認定施設</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p> <p>日本呼吸器学会認定医制度認定施設</p> <p>日本血液学会認定医研修施設</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設</p> <p>日本内分泌学会認定教育施設</p> <p>日本腎臓学会認定研修施設</p> <p>日本透析医学会認定施設</p> <p>日本神経学会認定医研修施設</p> <p>日本老年医学会専門医制度認定施設</p> <p>日本リウマチ学会教育施設</p> <p>日本肥満学会認定肥満症専門施設</p>

日本肝臓学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本高血圧学会高血圧研修施設 日本超音波医学界認定超音波専門医制度研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本認知症学会認定専門医教育施設 など
--

7. 公益財団法人日本生命済生会日本生命病院（2018年4月30日から名称変更）

認定基準 [整備基準 24] 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・日本生命病院常勤医師としての勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（臨床研修部及び総務人事グループ担当）があります。 ・ハラスメント相談窓口が設置されています。 ・女性専攻医も安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 [整備基準 24] 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 14 名在籍しています。（2024年4月現在） ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策の各講習会を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病病、病診連携カンファレンス）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医 JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 [整備基準 24] 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 の疾患群のうちほとんどの疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 [整備基準 24] 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理委員会および治験審査委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	橋本 久仁彦 【内科専攻医へのメッセージ】 日本生命病院は、「済生利民」を基本理念とする日本生命済生会が昭和 6 年に設立しました。現在では 28 診療科・9 診療センター、病床数 350 を擁する大

	<p>阪西部地域の基幹病院へと発展しており、予防から治療・在宅まで一貫した医療サービスの提供を実践しています。急性期医療だけでなく慢性期医療や地域医療にも貢献し、全人的医療を行うとともにリサーチマインドを持った内科専門医を育成します。</p>
指導医数（常勤）	<p>日本内科学会指導医 14 名、 日本内科学会総合内科専門医 16 名、 日本消化器病学会消化器専門医 7 名、 日本消化器内視鏡学会専門医 6 名、 日本肝臓学会専門医 3 名、 日本循環器学会専門医 4 名、 日本高血圧学会専門医 1 名、 日本糖尿病学会専門医 3 名、 日本内分泌学会専門医 2 名、 日本リウマチ学会専門医 2 名、 日本呼吸器学会専門医 4 名、 日本血液学会血液専門医 3 名、 日本神経学会専門医 2 名、 日本腎臓学会専門医 2 名、 日本透析医学会専門医 2 名、 日本老年学会老年病専門医 1 名 日本救急医学会救急科専門医 1 名</p>
外来・入院 患者数 （内科系）	<p>外来患者 389 名（一日平均） 入院患者 165 名（一日平均）（2023 年度）</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。</p>
経験できる技術・ 技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・ 診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 （内科系）	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会専門医研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本消化器病学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本膵臓学会認定指導施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本超音波医学会専門医制度研修施設 日本胆道学会指導施設</p>

	<p>日本内分泌学会認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本呼吸器学会呼吸器内科領域専門研修制度基幹施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本アレルギー学会専門医準教育施設 日本血液学会専門研修認定施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定制度認定施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本造血細胞移植学会非血縁者間造血細胞移植認定施設（診療科） 日本認知症学会専門医制度教育施設</p> <p style="text-align: right;">(2024年4月1日現在)</p>
--	--

8. 淀川キリスト教病院

<p>認定基準 [整備基準 24] 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。貸与されたタブレット端末を用いて電子ジャーナル検索がいつでもできます。 ・淀川キリスト教病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（メンタルヘルス推進課）があります。 ・ハラスメント相談窓口およびハラスメント防止・対応マニュアルが淀川キリスト教病院グループ内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。また院内で病児保育の利用も可能です。
<p>認定基準 [整備基準 24] 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は36名在籍しています（下記）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者：総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターが設置されています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う（2022年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に行う（2022年度実績7回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2022年度実績7回）を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム所属の全専攻医に JMECC 受講（2022 年度開催実績 1 回：受講者 11 名）を義務付けそのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 [整備基準 24] 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2023 年度 8 体）を行っています。
認定基準 [整備基準 24] 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室，資料作成室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し，定期的開催（2023 年度実績 11 回）しています。 ・治験審査委員会を設置し，定期的開催（2023 年度実績 6 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2023 年度実績 14 演題）をしています。
指導責任者	紙森 隆雄 【内科専攻医へのメッセージ】 淀川キリスト教病院は，全人医療を理念とし，幅広い診療科と高度な医療機器を備え，大阪市北部・北摂地域の医療の中心的役割を担っている 581 床の急性期総合病院です。現在大阪府がん診療拠点病院および地域医療支援病院，DPC 特定病院群に指定され，年間 7000 件前後の救急搬送実績があります。内科は 11 科からなり，内科全領域の指導医・経験豊かなスタッフが在籍しています。豊富な症例経験と，専攻医一人一人のニーズに合わせたきめ細かい指導を提供いたします。サブスペシャリティ領域を含めた質の高い内科専門医を目指す皆様と，内科を研鑽する時間を共有できることを心待ちにしています。
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医 28 名，日本内科学会総合内科専門医 36 名， 日本消化器病学会消化器専門医 11 名，日本肝臓学会肝臓専門医 3 名， 日本循環器学会循環器専門医 8 名，日本内分泌学会専門医 2 名， 日本糖尿病学会専門医 2 名，日本腎臓病学会専門医 4 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 8 名，日本血液学会認定血液専門医 3 名， 日本神経学会神経内科専門医 5 名，日本アレルギー学会専門医 6 名， 日本リウマチ学会専門医 2 名，がん薬物療法専門医 2 名， 日本感染症学会 1 名，日本消化器内視鏡学会専門医 12 名ほか
外来・入院 患者数 （内科系）	外来患者 10873 名（2023 年度平均延数／月） 新入院患者 542 名（2023 年度平均数／月）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・ 技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・ 診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。急性期医療では集中治療室での超重症例の診療も可能

	です。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本血液学会血液研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本神経学会認定教育施設 日本脳卒中学会専門医研修教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本緩和医療学会認定教育施設 など

9. 大阪国際がんセンター

認定基準 [整備基準 24] 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・新専門医制度 内科専門研修連携施設です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境、Wi-Fi環境があります。 ・大阪国際がんセンターとして労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務）があります。 ・ハラスメントに適切に対処する部署（総務）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 [整備基準 24] 2) 専門研修プログラムの環境	<p>日本内科学会指導医は 10 名在籍しています。（2024 年 3 月現在）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されているプログラム委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2023 年度実績計 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催（2023 年度実績 12 回、2022 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病病・病診連携カンファレンス）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 [整備基準 24] 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 6 領域で専門研修が可能な症例数を診療しています。

認定基準 [整備基準 24] 4) 学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	石川淳(内科学会指導医) 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪国際がんセンターは、特定機能病院、都道府県がん診療連携拠点病院として、高度ながん診療を提供している専門施設です。基幹施設と連携して内科専門研修を行い、地域医療にも貢献できる内科専門医を育成します。
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医 10 名、日本内科学会総合内科専門医 12 名、日本消化器病学会消化器専門医 12 名、日本肝臓学会肝臓専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本内分泌学会内分泌専門医 1 名、日本糖尿病学会糖尿病専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、日本血液学会血液専門医 5 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名ほか
外来・入院 患者数 （内科系）	2023 年度（4 月～2 月）延べ入院患者数消化管内科 1660 名、肝胆膵内科 1962 名、呼吸器内科 1313 名、血液内科 914 名、腫瘍内科 1167 名、内分泌代謝内科 6 名、腫瘍循環器科 57 名、内科系外来患者数延べ 79044 名
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 6 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、がん診療に関わる慢性疾患、希少疾患、さらに高度先進医療を経験できます。都道府県がん診療連携拠点病院として、地域医療、病診、病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会専門医制度研修連携施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌科認定教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本血液学会研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設

10. 桜橋渡辺病院

認定基準 [整備基準 24] 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（産業医が担当）があります。
--------------------------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・ハラスメント委員会が総務課に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 [整備基準 24] 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は7名在籍しています（下記） ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全講習会（2022年度実績2回）・感染対策講習会を定期的に関催（2022年度実績3回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2023年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域連携施設でのCPCへの専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病診連携カンファレンス2022年度実績4回）を定期的に関催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 [整備基準 24] 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 4 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。
認定基準 [整備基準 24] 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表は2022年度はありません。（2015年度実績1演題）
指導責任者	研修委員長 【内科専攻医へのメッセージ】 桜橋渡辺病院は、大阪市北医療圏における、主に循環器疾患についての中心的な急性期病院であり、基幹施設住友病院、JCHO大阪病院、日生病院および兵庫医科大学附属病院と連携して内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医7名、日本内科学会総合内科専門医10名 日本循環器学会循環器専門医20名
外来・入院 患者数（内科系）	外来患者4417名（平均延数／月）入院患者2260名（平均数／月）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 9 領域、29 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。また心臓カテーテル、カテーテルアブレーションなど循環器の高度な技術についても習得可能です。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設	日本循環器学会専門医研修施設

(内科系)	
-------	--

11. 堺市立総合医療センター

<p>認定基準 【整備基準23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・堺市立総合医療センター非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処するためヘルスケアサポートセンターを設置しています。 ・「地方独立行政法人堺市立病院機構ハラスメントの防止等に関する要綱」に基づきハラスメント通報・相談窓口が設置されており、内部統制室が担当しています。同要綱に基づき、ハラスメント防止委員会が所要の措置を講じています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・隣接する職員寮の敷地内に院内保育所、病児・病後児保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は33名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会において、基幹施設、連携施設に設置されている内科専門研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床教育センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会などを定期的に関催（2023年度実績eラーニング6回）し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的の主催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に関催（2023年度実績14症例）し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に関催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2023年度自施設内開催実績1回）を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床教育センターが対応します。 ・特別連携施設の専門研修では、指導医の連携施設への訪問に加えて電話や週1回の堺市立総合医療センターでの面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
<p>認定基準 【整備基準23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域のうち内分泌を除くほぼすべての分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2023年度実績9体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室、自習室、ソフトウェアなどを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に関催（2023年度実績6回）しています。 ・臨床研究推進室を設置し、定期的に治験審査会を開催（2023年度実績12回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会には、4演題（2023年度）の学会発表をしています。

指導責任者	<p>西田幸司 【内科専攻医へのメッセージ】 当院内科の理念</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 堺市二次医療圏の中核病院として急性期医療を担うことで地域医療に貢献する。 2. 優秀な内科医を育み、日本の医療に貢献する。 <p>私が育てたい内科医は「ジェネラルマインドを持ったスペシャリスト」です。自らの専門分野にとどまることなく、患者さんが抱えている問題を大きく把握し、優先順位を考えることで、その方に最適な医療を提供できる医師。それが、超高齢社会の日本で求められる内科医像だと考えます。そのためには、基礎的な内科力と総合的な判断力が必要です。当院では10年以上前から内科専攻医を受け入れ、ローテートシステムにより内科の土台作りを行ってきました。全国の「ジェネラルマインドを持ったスペシャリスト」を目指す専攻医の皆さんとともに診療できる日を心待ちにしております。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 33 名, 日本内科学会総合内科専門医 24 名, 日本消化器病学会消化器専門医 5 名, 日本消化器内視鏡学会専門医 6 名, 日本肝臓病学会専門医 4 名, 日本循環器学会循環器専門医 5 名, 日本糖尿病学会専門医 2 名, 日本腎臓病学会専門医 4 名, 日本透析医学会専門医 4 名, 日本内分泌学会専門医 1 名, 日本血液学会血液専門医 3 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名, 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 4 名, 日本脳卒中学会専門医 1 名, 日本神経学会神経内科専門医 5 名, 日本感染症学会専門医 2 名, 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 3 名 ほか</p>
外来・入院 患者数	<p>外来患者19,275名(平均延数/月) 新入院患者1,175名(平均数/月)</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域,70疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>内科専門研修プログラム基幹施設 日本集中治療医学会認定専門医研修施設 日本消化器病学会認定医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本脳卒中学会認定研修教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本麻酔科学会認定病院 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本血液学会認定医研修施設 日本病理学会研修認定施設</p>

	日本臨床細胞学会認定施設 日本臨床細胞学会認定教育研修認定施設 日本感染症学会認定研修施設 日本IVR学会認定専門医修練認定施設 日本てんかん学会認定研修施設 日本禁煙学会教育認定施設 日本糖尿病学会認定教育研修認定施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設
--	--

12. 紀南病院

認定基準 [整備基準 24] 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・紀南病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（労働安全衛生委員会）がありません。 ・各種ハラスメント相談窓口（セクシュアル&パワーハラスメント対策委員会）が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、専用当直室が整備されています。施設内の保育施設が利用可能であります。
認定基準 [整備基準 24] 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 4 在籍しています（2024年4月現在）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（腎臓内科部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医））にて、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修委員会を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う（2023 年度実績：講演会 6回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に行う（2023 年実績 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に行うし、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修委員会が対応します。
認定基準 [整備基準 24] 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 11 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 40 以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を適切に行います。

認定基準 [整備基準 24] 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室，インターネット（Wifi）を 整備しています． ・倫理委員会を設置し，定期的に開催しています． ・治験に関しては治験委員会が管理しています．
指導責任者	<p>木村桂三（統括責任者（副院長））</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】紀南病院は，和歌山県南部の急性期病院であり，地域に根ざした第一線の病院でもあります．近隣医療圏，近畿医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します．患者本位の全人的な医療サービスが提供できる責任感のある医師になられるよう，また学会発表や論文作成も指導し，学究的な志向を持つ医師となられるように指導させていただきます．</p>
指導医数（常勤）	<p>日本内科学会総合内科専門医 8名</p> <p>日本消化器病学会消化器専門医 3名</p> <p>日本消化器内視鏡学会専門医 3名</p> <p>日本肝臓学会肝臓専門医 1名</p> <p>日本呼吸器学会呼吸器専門医 2名</p> <p>日本循環器学会循環器専門医 3名</p> <p>日本糖尿病学会糖尿病専門医 2名</p> <p>日本腎臓学会腎臓専門医 1名</p> <p>日本透析医学会透析専門医 1名</p> <p>日本血液学会血液専門医 2名</p> <p>日本心血管インターベンション学会指導医 1名</p>
外来・入院 患者数 （内科系）	外来患者 3232 名（1 ヶ月平均） 入院患者 240 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 （内科系）	<p>日本内科学会認定医制度教育関連病院</p> <p>日本消化器病学会認定施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会指導施設</p> <p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設</p> <p>日本がん治療認定医機構認定研修施設</p> <p>日本腎臓学会研修施設</p> <p>日本血液学会専門研修教育施設</p> <p>日本透析医学会専門医制度認定施設</p> <p>日本アフェレシス学会認定施設</p>

13. 吹田市民病院

<p>認定基準 【整備基準23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・医師（非常勤職員）として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（病院総務室職員、公認心理師）があります。 ・ハラスメントに適切に対処するための部署（ハラスメント窓口担当）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は31名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（病院長）（総合内科専門医かつ指導医），プログラム管理者（内科部長）（総合内科専門医かつ指導医））にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う（2023年度実績10回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に行い，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に行う（2023年度実績5回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（北大阪内科カンファレンス等）を定期的に行い，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修プログラム管理委員会が対応します。
<p>認定基準 【整備基準23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくとも7分野以上）で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70疾患群のうち膠原病をのぞく全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2021年度4体、2022年度5体、2023年度4体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し，定期的に行う（年4回）しています。 ・治験管理室を設置し，定期的に行う受託研究審査会を開催（月1回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2020年度実績4演題、2019年度実績5演題、2018年度実績4演題）をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>火伏俊之</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>市立吹田市民病院は，大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院であり，豊能医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設として内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p> <p>主担当医として，入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
<p>指導医数</p>	<p>日本内科学会指導医8名，日本内科学会総合内科専門医18名</p>

(内科系常勤医)	日本消化器病学会消化器専門医8名, 日本肝臓病学会専門医7名 日本循環器学会循環器専門医4名, 日本糖尿病学会専門医3名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医4名, 日本血液学会血液専門医4名, 日本神経学会神経内科専門医4名, 日本アレルギー学会専門医(内科)1名, 日本リウマチ学会リウマチ専門医2名 ほか
外来・入院患者数	外来患者16,870名(1か月平均) 入院患者801名(1か月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳(疾患群項目表)にある13領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例 に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療、診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・ 病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医関連認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本超音波学会認定超音波専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本がん治療認定機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 大阪府癌診療拠点病院指定書 臨床研修認定病院 など

14. 医療法人 川崎病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・医療法人川崎病院非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課職員担当)があります。 ・各種ハラスメント相談窓口が医療法人川崎病院に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように, 休憩室, 更衣室, 仮眠室, シャワー室, 当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり, 利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は16名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(副院長), プログラム管理者(総合診療科部長)(ともに総合内科専門医かつ指導医))にて, 基幹施設, 連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。

	<ul style="list-style-type: none"> ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修管理室を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023年度実績6回 適宜e-learning実施）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催（2023年実績7回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（院内学術集会、院内感染対策講習会、地域連携セミナー、兵庫区循環器研究会、兵庫区消化器連携セミナー、心不全カンファレンスなど（2023年度実績12回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修管理室が対応します。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24/31】</p> <p>3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくとも7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室、インターネット（Wi-fi）、統計ソフトウェアなどを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>飯田正人</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>医療法人川崎病院は、兵庫県神戸医療圏の中心的な急性期病院であり、神戸医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設として内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p> <p>主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
<p>指導医数</p> <p>（常勤医）</p>	<p>日本内科学会指導医 16名</p> <p>日本内科学会総合内科専門医 13名</p> <p>日本消化器病学会消化器専門医 3名</p> <p>日本循環器学会循環器専門医 10名</p> <p>日本糖尿病学会糖尿病専門医 4名</p> <p>日本腎臓学会腎臓専門医 1名</p> <p>日本透析医学会専門医 1名</p> <p>日本血液学会血液専門医 1名</p> <p>日本肝臓学会肝臓専門医 2名、ほか</p>

外来・入院患者数	延べ外来患者 10,950 名(1 か月平均) 入院患者 6,311 名(1 か月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会暫定指導施設 日本カプセル内視鏡学会指導施設 日本大腸肛門学会関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本血液学会認定医研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本動脈硬化学会専門医教育病院 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設 など

15. 兵庫県立西宮病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・地方公務員法第 22 条第 2 項の規定に基づく臨時的任用職員として正規職員に準じた労務環境が保障されています。また公舎等の利用が可能です。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理センター）が兵庫県庁にあります。希望者には毎年メンタルヘルスに関する健診を行っています。 ・院内にハラスメント委員会を設置しました。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、18 時まで保育時間を延長する延長保育を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 30 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。

<p>ラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2021年度実績 医療倫理 2回、医療安全 2回、感染対策 2回）し、ZOOM配信により専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2022年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催（2017年度実績 12回・12体分、2018年度実績 4回・4体分、2019年度実績 10回・10体分、2020年度実績 2回・2体分、2021年度実施 4体、2022年度実施 2体）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2022年度実績 39回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門研修に必要な剖検（2017年度実績 12体、2018年度実績 4体、2019年度実績 10体、2020年 2体、2021年度 4体、2022年度実施 2体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2017-2022年度実績 3 演題）をしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倫理委員会を設置し、定期的開催（2020年度実績 11回）しています。 ・治験センターを設置し、定期的治験審査委員会を開催（2020年度実績 12回）しています。 ・臨床研究センターを設置しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭演者としての執筆が定期的に行われています。 ・臨床教育センターを設置しています。
<p>指導責任者</p>	<p>檜原 啓之（ならはら ひろゆき）</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>兵庫県立西宮病院は、人口が増加している兵庫県西宮市の一等地（阪神電車から徒歩 1 分にあります。兵庫県立病院の中で最も歴史が古く、チーム医療・トータルケア（全人的医療）を実践しています。兵庫県内および大阪府内の連携施設や大阪大学医学部附属病院・兵庫医科大学・関西医科大学・大阪医科薬科大学と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本プログラムは、初期臨床研修修了後に院内の内科系診療科のみならず連携施設と連携して、質の高い内科専門医を育成するものです。医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、さらに医学の進歩に貢献して国内のニーズへの貢献を担える医師を育成することを目的とするものです。
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 30 名、日本内科学会総合内科専門医 21 名 日本消化器病学会消化器病専門医 17 名、日本肝臓学会肝臓専門医 8 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本内分泌学会専門医 3 名、日本腎臓学会腎臓専門医 5 名、日本糖尿病学会専門医 4 名、ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 12,464 名（1ヶ月平均） 入院患者 9,015 名（1ヶ月平均延数）</p>

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。特に化学療法・肝がん経皮的治療・内視鏡治療においてはより高度な専門技術を習得することができます。
経験できる地域医療・診療連携	救命救急センターと緊密に連携してドクターカー・DMATカーを含めて超急性期症例を経験できます。また急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会特別連携施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本血液学会血液研修施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本救急医学会指導医指定施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本大腸肛門病学会大腸肛門病認定施設 日本胆道学会認定指導施設 日本禁煙学会認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本臨床腎移植学会認定研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 など

16. 市立伊丹病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・伊丹市非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課人事研修担当）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は33名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（診療部長）（内科指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨

	<p>床研修センターを設置しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的開催（2019年度実績5回、2020年度実績9回、2021年度実績9回、2022年度実績5回、2023年度9回実績）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2019年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催（2019年度実績12回、2020年度実績9回、2021年度実績8回、2022年度実績8回、2023年度実績12回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（伊丹市医師会内科医会循環器フォーラム、伊丹市医師会内科医会糖尿病フォーラム、伊丹市医師会内科医会呼吸器疾患フォーラム、伊丹市医師会消化器勉強会。外科医会合同講演会、伊丹市医師会内科医会講演会、登竜門カンファレンス、神戸GMカンファレンスなど）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2016年9月に第1回を開催、2017年5月に第2回、2018年5月に第3回を開催、2019年5月に第4回を開催、2022年10月に第5回を開催、2023年6月に第6回を開催、2024年10月に第7回を開催）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23/31】</p> <p>3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち11全分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも58以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2018年度実績10体、2019年度13体、2020年度8体、2021年度9体、2022年度12体、2023年度6体）を行っています。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的開催（2019年度実績9回、2020年度実績3回、2021年度実績9回、2022年度実績7回、2023年度実績8回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的治験審査委員会を開催（2019年度実績11回、2020年度実績8回、2021年度実績8回、2022年度実績11回、2023年度実績11回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2019年度実績3演題、2020年度実績3演題、2021年度実績5演題、2022年度実績3演題、2023年度実績7演題）をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>村山洋子</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>市立伊丹病院は、兵庫県阪神医療圏の中心的な急性期病院であり、阪神医療圏。近隣医療圏にある連携施設。特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p> <p>主担当医として、入院から退院（初診。入院～退院。通院）まで経時的に、診断。治療の流れを通じて、社会的背景。療養環境調整をも包括する全人的医療を</p>

	実践できる内科専門医になります。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 33 名, 日本内科学会総合内科専門医 22 名, 日本消化器病学会消化器指導医 4 名, 日本消化器病学会消化器専門医 7 名, 日本消化器内視鏡学会指導医 4 名, 日本消化器内視鏡学会専門医 8 名, 日本肝臓学会指導医 1 名, 日本肝臓学会専門医 4 名, 日本循環器学会循環器専門医 6 名, 日本呼吸器学会呼吸器指導医 2 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名, 日本血液学会血液指導医 3 名, 日本血液学会血液専門医 4 名, 日本糖尿病学会指導医 1 名, 日本糖尿病学会専門医 4 名, 日本アレルギー学会指導医 (内科) 1 名, 日本リウマチ学会指導医 1 名, 日本腎臓病学会専門医 1 名, 日本老年医学会指導医 2 名, 日本臨床腫瘍学会指導医 1 名 ほか
外来。入院患者数	外来患者 17,374 名 (1 ヶ月平均) 新入院患者 841 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術。技能	技術。技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療。診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診、病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 臨床研修病院 (基幹型) 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本膵臓学会認定施設 日本呼吸器学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会認定施設 日本老年医学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本循環器学会専門医制度研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会専門医制度研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本超音波医学会専門医研修施設 日本人間ドック学会専門医制度研修関連施設 日本老年医学会認定施設 日本透析医学会専門医制度認定施設

	など
--	----

17. 川西市立総合医療センター

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（医事課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が川西市立総合医療センター内、医療法人協和会内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・仮眠室・シャワー室・当直室が整備されています。 ・提携している保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は16名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（診療局長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2023年度実績12回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催（2023年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病院主催川西市地域医療連携勉強会、感染防止対策講習会）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくとも8分野以上で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2021～2023年度平均5.0体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会が設置されています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1講演以上に学会発表をしています。

指導責任者	厨子 慎一郎
	<p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>川西市立総合医療センターは2022年9月に新規開院した川西市内最大の急性期病院です。阪神北医療圏域の中核病院として広く川西市、猪名川町にわたる高齢者の多い地域の多彩な疾患が経験可能です。内科以外の診療科とも協力して積極的に診療にかかわり、生涯にわたって学習する姿勢を大事にする医師を育成します。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医5名、日本内科学会総合内科専門医5名、 日本消化器病学会消化器専門医4名、 日本消化器内視鏡学会専門医4名、日本消化器内視鏡学会指導医4名、 日本消化管学会胃腸科専門医2名、日本消化管学会胃腸科指導医2名、 日本カプセル内視鏡学会専門医1名、日本カプセル内視鏡学会指導医1名、 日本循環器学会専門医5名、日本心血管インターベンション治療学会専門医2名、 日本禁煙学会専門医1名、日本脈管学会脈管専門医1名、 日本呼吸器学会専門医2名、日本呼吸器学会指導医1名、 日本呼吸器内視鏡学会専門医1名、日本呼吸器内視鏡学会指導医1名、 日本糖尿病学会指導医1名、日本糖尿病学会専門医2名、 日本内分泌学会指導医1名、日本内分泌学会専門医1名、 日本高血圧学会指導医1名、日本老年病学会専門医1名、 日本腹膜透析医学会連携認定医1名、 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医1名</p>
外来・入院患者数	外来患者 12,394名(1か月平均) 入院患者数 11,718名(1か月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群のうち8領域50疾患群以上の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定制度教育関連病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本高血圧学会専門医制度 認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本老年医学会認定施設 日本腎臓学会認定教育施設 日本透析医学会教育関連施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設</p>

	<p>浅大腿動脈ステントグラフト実施基準管理委員会SFASG 実施施設 日本臨床栄養代謝学会NST 稼働施設認定 など</p>
--	---

18. 市立東大阪医療センター

<p>認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・市立東大阪医療センター非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が東大阪市役所に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育も含めて利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 14 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2023 年度実績はそれぞれ 1 回・2 回・2 回、Web 開催を含む）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC については、COVID-19 の影響により、開催に制限を受けていますが、2021 年度 3 回、2022 年度 3 回、2023 年度 3 回開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ・地域参加型のカンファレンス（市立東大阪医療センタースクラム会、東大阪市循環器研究会、東大阪市神経筋難病地域ケア研究会、東大阪生活習慣病研究会、東大阪市消化器病症状例検討会、東大阪市腎臓病カンファレンス）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに登録している全ての専攻医に JMECC 受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、血液、神経、膠原病、感染症、救急の 10 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
<p>認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2023 年度実績 4 演題）をしており、その他関連学会での学会発表もしています。
<p>指導責任者</p>	<p>プログラム統括責任者 鷹野 譲</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>市立東大阪医療センターは、大阪府中河内医療圏に 2 病院しかない内科学会教</p>

	<p>育病院の1つで、当地区の中心的な急性期病院であり、中河内医療圏・近隣医療圏にある連携施設として内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。また、2017年4月より3次救命救急センターである、隣接府立中河内救命救急センターの指定管理も受託しており、当センターとの一体化した運用により、高度の救急疾患も経験できます。さらに、2019年度にはICU、手術室の大幅な拡張工事を行い、心臓血管外科の手術も開始し、アブレーションなど循環器内科の症例も飛躍的に増加する一方、脳外科と神経内科で脳卒中当直（SCU）も開始し、さらに優れた急性期医療を経験できるようになりました。</p> <p>主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
指導医数 （常勤医）	<p>日本内科学会指導医 14名、日本内科学会総合内科専門医 11名 日本消化器病学会消化器専門医 10名、日本循環器学会循環器専門医 7名、 日本糖尿病学会専門医 2名、日本腎臓病学会専門医 4名、 日本神経学会専門医 4名、日本リウマチ学会専門医 2名、 日本肝臓学会専門医 7名、日本老年病学会専門医 1名 日本血液学会指導医 1名、日本消化器内視鏡学会 8名ほか</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者 74,130名/年、新患 11,710名/年 入院患者 55,156名/年、新入院 4,499名/年（実数）2023年度内科系実績</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 （内科系）	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本病院総合診療医学会認定施設 など</p>

19. 大阪はびきの医療センター

<p>認定基準 [整備基準 24] 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度連携型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 ・非常勤医員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する制度が院内にあります。（こころの健康相談室（毎月第1月曜日）） ・女性専攻医が安心して勤務できるように、ロッカー、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・院内に託児所があり、病児保育（定員1名）も含め利用可能です。
<p>認定基準 [整備基準 24] 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 2024 年 4 月の時点で 5 名在籍しています。 ・専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理、医療安全、感染対策の各講習会を定期的で開催（2023 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 16 回、感染対策 9 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加できるよう、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催（2023 年度実績：2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的で開催準備中です。専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 [整備基準 24] 3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、10 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準 [整備基準 24] 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室、臨床研究センターを整備しています。 ・治験審査委員会を設置し、定期的な受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>大阪はびきの医療センター内科専門研修プログラム責任者 江角章</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>大阪はびきの医療センターは、もともと、呼吸器、感染症、アレルギー疾患の専門病院であり、この領域において非常にレベルの高い研修が行えます。さらに現在、診療領域を広げて総合医療センターを目指して整備中です。呼吸器やアレルギー疾患の専門領域を目指す先生にとっては、豊富な専門症例が経験できます。また呼吸器疾患や結核・COVID-19</p>

	などの感染症、アレルギー疾患は全ての診療領域の疾患と併存してきますので、どのサブスペシャリティーの領域へ進む先生にとっても将来、診療に役に立つ知識が得られます。当センターでの研修をお待ちしています。
指導医数（常勤）	日本内科学会総合内科指導医 1名（専門医 10名） 日本呼吸器学会指導医 4名（専門医 8名） 日本アレルギー学会指導医 1名（専門医 2名） 日本呼吸器内視鏡学会指導医 0名（専門医 3名） 日本リウマチ学会指導医 1名（専門医 3名）
外来・入院患者数	2023年実績（内科系のみ）：外来患者 375名（平均/日）、入院患者 4,764名/年
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある7領域、30疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	WAO center of excellence 日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本呼吸器学会内科系外科系指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本循環器学会認定専門医研修関連施設 日本病理学会登録施設 など

20. 大阪警察病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型，協力型研修指定病院です ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります ・常勤医師（特定任期付職員）として労務環境が保障されています ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課厚生係）があります ・ハラスメント窓口（人事課）が整備されています ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩コーナー，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています ・院内に病児保育室があり，利用可能です
--------------------------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 託児手当があり、利用可能です（子が3歳に達する迄）
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医は17名在籍しています(2023年4月現在) ・ 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長））、副統括責任者（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります ・ 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と内科専門医研修管理室を設置します ・ 医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的開催（2020年度3回、2021年度実績3回、2022年度実績9回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2022年度実績2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ・ CPCを定期的に開催（2020年度20回、2021年度実績14回、2022年度実績14回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕をあたえます ・ 地域参加型のカンファレンス（天王寺区医師会・病院合同講演会年1回、臨床医講習会年4回、各内科診療科地域連携講演会年5回前後、夕陽丘緩和ケア連絡会年3-4回など）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ・ プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2020年度実績1回、2021年度実績1回、2022年度実績1回）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ・ 日本専門医機構による施設実地調査に内科専門医研修管理室が対応します
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23/31】</p> <p>3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくとも10分野）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています ・ 70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも56以上の疾患群）について研修できます ・ 専門研修に必要な剖検（2020年度18体、2021年度実績13体、2022年度実績13体）を行っています
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床研究に必要な図書室、OAルームなどを整備しています ・ 倫理委員会を設置し、定期的（2020年度実績12回、2021年度実績12回、2022年度実績12回）開催しています ・ 治験センターを設置し、定期的治験審査委員会を開催（2020年度実績12回、2021年度実績12回、2022年度実績11回）しています ・ 日本内科学会講演会（および内科学会ことはじめ）あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2020年度実績12題、2021年度実績12題、2022年度実績15題）をしています ・ 学会等への参加は出張扱いとし、出張費を支給しています（当院規定による）
指導責任者	飯島英樹

	<p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>大阪警察病院は、大阪府大阪市二次医療圏の中心的な急性期病院であり、二次医療圏・近隣医療圏にある連携施設と内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p> <p>地域医療における救急診療の要として、「断らない医療をモットー」に二次医療圏のみならず、大阪府下・近隣府県の救急疾患・急性期疾患の医療に応需しております。</p> <p>内科専門医外来、ER・総合診療センターにおける外来・当直研修を通じて、初期診療に十分対応しえる医師をめざした研修を、また、高齢者医療、慢性期疾患、癌疾患などの継続的な診療など、多数の症例を経験することができます。一方、入院症例においては、入院から退院（初診・入院～退院・通院）経時的に、診断・治療の流れを経験することで、主担当医として、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざしていただけます。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 7名、日本内科学会総合内科専門医 14名 日本消化器病学会消化器専門医 14名、日本肝臓学会肝臓専門医 5名、 日本循環器学会循環器専門医 7名、日本糖尿病学会専門医 1名、 日本内分泌学会専門医 1名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3名、 日本神経学会神経内科専門医 1名、日本感染症学会専門医 1名、 日本救急医学会救急科専門医 2名 ほか（2023年4月現在）</p>
外来・入院患者数 (2023年度実績)	<p>(病院全体) 外来患者 29,522名 (1ヶ月平均)、入院患者 1,251名 (1ヶ月平均) (うち内科系) 外来患者 12,414名 (1ヶ月平均)、入院患者 531名 (1ヶ月平均)</p>
経験できる疾患群	<p>きわめてまれな疾患をのぞいて、<u>研修手帳(疾患群項目表)</u>にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます</p>
経験できる技術・技能	<p>・<u>技術・技能評価手帳</u>にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢化社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会 専門医制度認定教育病院 日本感染症学会 認定研修施設 日本肝臓学会 認定医制度認定施設 日本がん治療認定医機構 認定研修施設 日本救急医学会 専門医指定施設 日本呼吸器学会 認定施設 日本循環器学会 専門医認定研修施設 日本消化器内視鏡学会 専門医制度認定指導施設 日本消化器病学会 認定施設 日本神経学会 専門医制度認定準教育施設</p>

	日本糖尿病学会 認定教育施設 日本内分泌学会 内分泌代謝科認定教育施設 日本臨床腫瘍学会 認定研修施設 など
--	---

21. 大阪急性期・総合医療センター

認定基準 [整備基準 24] 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 ・非常勤医員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する施設（大阪府こころの健康総合センター）が、病院と公園をはさんで隣にあります。 ・バランスメント対策講習会が院内で毎年開催されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、ロッカー、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・病院と同敷地内に保育所があり、病児保育も含め利用可能です。
認定基準 [整備基準 24] 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・JMECC 開催要件であるディレクターが在籍しており、毎年数回講習会を開ける体制にあります。 ・指導医は 2024 年 3 月の時点で 36 名在籍しています。 ・専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理、医療安全、感染対策の各講習会を定期的に開催（2023 年度実績 医療倫理 0 回、医療安全 10 回、感染対策 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2023 年度実績：8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型カンファレンスを各診療科にて年 2 回開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 [整備基準 24] 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のすべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 [整備基準 24] 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2023 年度実績 7 演題）をしています。
指導責任者	大阪急性期・総合医療センター内科専門研修プログラム責任者 林 晃正
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医 36 名、日本内科学会総合内科専門医 33 名
外来・入院 患者数	2023 年実績：外来患者 965 名（平均/日）、入院患者 19410 名/年
経験できる疾患群	専攻医登録評価システム（J-OSLER）にある内科 13 領域、70 疾患群のほ

	<p>とんどすべての症例を定常的に経験することができます。当センターは高度救命救急センター、三次救急及び二次救急の指定医療機関であることを踏まえ、南大阪地域の救命救急の中核的医療機関として、24時間体制で患者さんを受け入れています。従って、救命救急センターと連携して救急領域の不足疾患を経験することが可能です。また、障害者医療・リハビリテーションセンターを有して、医療と福祉の連携といった観点に立った活動も行っているため、急性期から慢性期まで幅広い疾患群を経験できます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、慢性疾患、希少疾患、さらに高度先進医療を経験できます。また、大阪府南部医療圏における地域医療、病診・病々連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈学会専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定医認定施設 日本高血圧学会専門医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本アレルギー学会専門医教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会専門医教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設 日本内科学会専門医制度研修施設 日本感染症学会研修認定施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 心血管インターベンション学会研修施設 植え込み型除細動器移植・交換術認定施設 両室ペースメーカー移植術認定施設 日本胆道学会指導施設 経皮的僧帽弁接合不全修復システム認定施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本超音波医学会超音波専門医研修施設 日本血液学会研修教育施設 日本脳神経血管内治療学会研修施設</p>

22. 地域医療機能推進機構大阪病院

<p>認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 地域医療機能推進機構大阪病院専攻医として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスについては、産業医、心理療法士及び総務企画課長が適切に対処します。 ・ ハラスメントについては、総務企画課長が対処します。 ・ 女性専攻医でも安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、病児保育を含め利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医は 19 名在籍しています。 ・ 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・ 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ・ 専攻医に医療安全セミナーを年 2 回以上、感染対策セミナーを年 2 回以上の受講を義務づけます。これらの講義に参加する時間的な余裕を与えます。 ・ CPC を原則毎月開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的な余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンスを定期的で開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的な余裕を与えます。 ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務づけ、そのための時間的な余裕を与えます。 ・ 日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修プログラム管理委員会が対応します。
<p>認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 6 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ 70 疾患群のうち 56 疾患群について研修できます。 ・ 専門研修に必要な剖検（年平均 10 体以上）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・ 倫理委員会（年 4 回）と治験審査委員会（月 1 回）を開催し、自主研究の審査を行っています。治験管理は治験審査委員会が担当し、受託研究審査委員会（適宜開催）で審査しています。 ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間平均 4～5 題の学会発表をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>金子 晃</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>地域医療機能推進機構大阪病院は、大阪府 2 次医療圏である大阪市西部の中核病院として、急性期医療から地域医療までを担っています。地域の実情に</p>

	<p>合わせた実践的な医療を行えるように研修を行い、総合的な内科専門研修から Subspecialty 研修への橋渡しができると思います。3年間の研修ののちは内科専門医として自信をもって、診療・研究に従事することができるようになるものと思います。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 19名 日本内科学会認定医 18名 日本内科学会総合内科専門医 19名 日本循環器学会専門医 6名 日本消化器病学会専門医 8名 日本肝臓学会専門医 7名 日本呼吸器学会専門医 6名 日本腎臓病学会専門医 3名 日本糖尿病学会専門医 3名 日本消化器内視鏡学会専門医 5名 日本神経学会専門医 4名 日本感染症学会専門医 1名 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 2名 日本心血管インターベンション学会専門医 1名 日本脳卒中学会認定脳卒中専門医 4名 日本透析医学会専門医 3名 アレルギー学会認定専門医(内科) 1名 日本呼吸器内視鏡学会専門医 2名 日本超音波学会認定超音波専門医 3名 日本消化管学会認定医 1名 日本ヘリコバクター学会認定ピロリ菌感染症認定医 1名 日本不整脈学会認定専門医 1名 日本がん治療認定医機構認定がん治療認定医 8名 日本脳神経血管内治療学会専門医 1名</p>
<p>外来・入院 患者数(内科)</p>	<p>外来患者 年間 90,684名(1ヶ月平均7,557人) 入院患者 年間 59,064名(1ヶ月平均4,922人)</p>
<p>経験できる 疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある12領域、69疾患群の症例を幅広く経験することができます</p>
<p>経験できる 技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域 医療・診療連携</p>	<p>総合病院における急性期医療だけでなく、地域に根ざした中核病院における医療、病診・病病連携なども経験できます。また全国規模の地域医療機能推進機構のスケールメリットを生かした、僻地医療も経験もできます。</p>

学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修基幹施設 日本神経学会専門医教育施設 日本肝臓学会認定施設 日本膵臓学会認定指導施設 日本呼吸器内視鏡学会診療施設 日本透析医学会専門医認定施設 日本脳卒中学会研修教育病院
-----------------	--

23. 大阪労災病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・独立行政法人労働者健康安全機構の非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は16名在籍しています（下記）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長・腎臓内科部長）、プログラム管理者（副院長・循環器内科部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2023年度実績9回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催（2023年度実績12回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（基幹施設：堺循環器懇話会、南大阪心疾患治療フォーラム、南大阪不整脈研究会、SAKAI CKD Community、堺腎疾患懇話会、堺糖腎会、堺和泉糖尿病懇話会、南大阪臨床栄養研究会、大阪南インスリン治療フォーラム、南大阪消化器病懇話会など；2023年度実績30回）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余

	<p>裕を与えます。</p> <p>・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。</p>
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23/31】</p> <p>3) 診療経験の環境</p>	<p>・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。</p> <p>・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。</p> <p>・専門研修に必要な剖検（2023 年度 8 体、2022 年度実績 7 体）を行っています。</p>
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>4) 学術活動の環境</p>	<p>・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。</p> <p>・倫理委員会を設置し、定期的を開催（2023 年度実績 6 回）しています。</p> <p>・治験管理室を設置し、定期的に治験委員会を開催（2023 年度実績 11 回）しています。</p> <p>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2023 年度実績 15 演題）をしています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>山内 淳</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>大阪労災病院は、大阪府南大阪医療圏の中心的な急性期病院であり、南大阪医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p> <p>主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
<p>指導医数</p> <p>（常勤医）</p>	<p>日本内科学会指導医 12 名、日本消化器病学会消化器指導医 7 名、日本内分泌学会指導医 2 名、日本人間ドック学会指導医 1 名、日本糖尿病学会指導医 3 名、日本腎臓学会指導医 3 名、日本老年医学会指導医 2 名、日本消化器内視鏡学会指導医 2 名、日本超音波医学会指導医 1 名、日本高血圧学会指導医 1 名、日本肝臓学会指導医 6 名、日本透析医学会指導医 3 名、日本心血管インターベンション治療学会指導医 3 名、日本神経学会神経内科指導医 1 名、ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 33,365 名（1 ヶ月平均） 入院患者 15,856 名（1 ヶ月平均）</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
<p>学会認定施設</p> <p>（内科系）</p>	<p>日本内科学会認定医制度教育病院</p> <p>日本老年医学会認定施設</p> <p>日本消化器病学会認定施設</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p> <p>日本腎臓学会研修施設</p> <p>日本リウマチ学会教育施設</p>

	日本透析医学会専門医制度認定施設 日本精神神経学会研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本脳卒中学会研修教育病院 日本神経学会認定准教育施設 など
--	---

24. 国立病院機構大阪医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 国立病院機構大阪医療センター専攻医として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに対しては管理課長が適切に対処します。 ・ ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医は 33 名在籍しています。 ・ 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・ 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修センターを設置します。 ・ 医療倫理は年 3 回開催される臨床研究セミナー内で講義され、専攻医は受講が義務付けられます。医療安全セミナーを年 14 回、感染対策セミナーを年 12 回開催し、専攻医に受講を義務付けます。これらの講義に参加する時間的な余裕を与えます。 ・ CPC を毎月開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的な余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（法円坂地域医療セミナー、オンコロジーセミナー、緩和ケアセミナー）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的な余裕を与えます。 ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的な余裕を与えます。 ・ 日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 11 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ 70 疾患群のうち 69 疾患群について研修できます。 ・ 専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・ 倫理委員会（適宜開催）と受託研究第 2 審査委員会（月 1 回）を開催し、自主研究の審査を行っています。治験管理は臨床研究推進室が担当し、受託研究第 1 審査委員会（月 1 回）で審査しています。 ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間平均 4～5 題の学会発表をしています。
指導責任者	柴山浩彦 【内科専攻医へのメッセージ】 国立病院機構大阪医療センターは、大阪府 2 次医療圏である大阪市東部の中核病院として、急性期医療から地域医療までを担っています。総合的な内科専門研修から Subspecialty 研修への橋渡しができると思います。3 年間の研修ののちは内科専門医として自信をもって、診療・研究に従事することができるよ

	うになるものと思います。
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 33名 日本内科学会総合内科専門医 27名 日本循環器学会専門医 10名 日本肝臓学会専門医 8名 日本腎臓学会専門医 3名 日本内分泌学会専門医 2名 日本神経学会専門医 6名 日本感染症学会専門医 3名 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 4名</p> <p>日本内科学会認定医 45名 日本内科学会専門医(新制度) 8名 日本消化器病学会専門医 15名 日本呼吸器学会専門医 8名 日本糖尿病学会専門医 3名 日本血液学会専門医 3名 日本アレルギー学会専門医 1名 日本消化器内視鏡学会専門医 11名</p>
外来・入院 患者数	<p>外来患者 年間238,195名(1ヶ月平均19,850人) 新入院患者 年間14,871名(1ヶ月平均1,239人)</p>
経験できる 疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある12領域、69疾患群の症例を幅広く経験することができます
経験できる 技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域 医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本脳卒中学会研修教育病院 日本感染症学会研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設</p> <p>日本神経学会準教育施設 日本肝臓学会認定施設 日本胆道学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会診療施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会血液研修施設 日本脳神経血管内治療学会研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設</p>

別表資料D 各年次到達目標

	内容	専攻医3年修了時	専攻医3年修了時	専攻医2年修了時	専攻医1年修了時	※5 病歴要約提出数
		カリキュラムに示す疾患群	修了要件	経験目標	経験目標	
分野	総合内科Ⅰ(一般)	1	1※2	1		2
	総合内科Ⅱ(高齢者)	1	1※2	1		
	総合内科Ⅲ(腫瘍)	1	1※2	1		
	消化器	9	5以上※1※2	5以上※1		3※1
	循環器	10	5以上※2	5以上		3
	内分泌	4	2以上※2	2以上		3※4
	代謝	5	3以上※2	3以上		
	腎臓	7	4以上※2	4以上		2
	呼吸器	8	4以上※2	4以上		3
	血液	3	2以上※2	2以上		2
	神経	9	5以上※2	5以上		2
	アレルギー	2	1以上※2	1以上		1
	膠原病	2	1以上※2	1以上		1
	感染症	4	2以上※2	2以上		2
	救急	4	4※2	4		2
外科紹介症例					2	
剖検症例					1	
合計※5	70疾患群	56疾患群 (任意選択含む)	45疾患群 (任意選択含む)	20疾患群	29症例 (外来は最大7)※ 3	
症例数※5	200以上 (外来は最大 20)	160以上 (外来は最大 16)	120以上	60以上		

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」，「肝臓」，「胆・膵」が含まれること。

※2 修了要件に示した分野の合計は 41 疾患群だが，他に異なる 15 疾患群の経験を加えて，合計 56 疾患群以上の経験とする。

※3 外来症例による病歴要約の提出を 7 例まで認める。(全て異なる疾患群での提出が必要)

※4 「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ 1 症例ずつ以上の病歴要約を提出する。

例) 「内分泌」2 例+「代謝」1 例，「内分泌」1 例+「代謝」2 例

※5 初期臨床研修時の症例は，例外的に各専攻医プログラムの委員会が認める内容に限り，その登録が認められる

大阪大学医学部附属病院内科専門研修プログラム管理委員会

(令和 6 年 4 月)

大阪大学医学部附属病院

保仙直毅 (プログラム統括責任者、研修委員会委員長、血液内科分野責任者)
坂田泰史 (副プログラム統括責任者、循環器内科分野責任者)
竹原徹郎 (消化器内科分野責任者)
望月秀樹 (神経内科分野責任者)
猪阪善隆 (腎臓内科分野責任者)
檜崎雅司 (免疫内科分野責任者)
武田吉人 (呼吸器内科分野責任者)
山本浩一 (老年・総合内科分野責任者)
小澤純二 (糖尿病・内分泌・代謝内科分野責任者)

連携施設担当委員 (連携施設 研修委員会委員長)

一般財団法人住友病院	山本浩司
日本生命病院	橋本久仁彦
市立池田病院	澤井良之
市立豊中病院	中川理
箕面市立病院	西原彰浩
国立循環器病研究センター病院	野口暉夫
淀川キリスト教病院	富田弘道
桜橋渡辺病院	岩倉克臣
国立病院機構大阪刀根山医療センター	松村剛
紀南病院	木村桂三
堺市立総合医療センター	西田幸司
大阪国際がんセンター	石川淳
吹田市民病院	火伏俊之
兵庫県立西宮病院	檜原啓之
川崎病院	飯田正人
市立伊丹病院	村山洋子
川西市立総合医療センター	厨子慎一郎

市立東大阪医療センター
大阪はびきの医療センター

鷹野譲
江角章